

調査の概要

・調査手法

- (1) 調査対象：狛江市LINEアカウント登録者（ブロック登録者を除く）
- (2) 対象者数：45,422人 ※令和6年5月29日時点
- (3) 調査期間：令和6年5月15日～令和6年5月31日

・回答結果

	サンプル数	回答率
回答数	1,052票 (女性：603票 男性：432票 無回答：17票)	2.3%

調査回答者の属性

1. 性別

	回答数	構成比
女性	603	57.3%
男性	432	41.1%
その他	1	0.1%
回答したくない	11	1.0%
無回答	5	0.5%
合計	1,052	

2. 年齢

	回答数	構成比
10代	2	0.2%
20代	56	5.3%
30代	182	17.3%
40代	236	22.4%
50代	259	24.6%
60代	178	16.9%
70代	115	10.9%
80歳以上	22	2.1%
無回答	2	0.2%
合計	1,052	

3. 配偶者等の有無

	回答数	構成比
配偶者(事実婚含む)がいる	756	71.9%
配偶者(事実婚を含む)以外のパートナーがいる	39	3.7%
配偶者等はいない	251	23.9%
無回答	6	0.6%
合計	1,052	

4. 世帯の働き方

	回答数	構成比
自分も配偶者又はパートナーも働いている	526	66.2%
自分のみ働いている	90	11.3%
配偶者又はパートナーのみ働いている	89	11.2%
自分も配偶者又はパートナーも働いていない	84	10.6%
無回答	6	0.8%
合計	795	

5. 家族構成

	回答数	構成比
ひとり暮らし	174	16.5%
夫婦又はパートナーのみ(一世代家族)	304	28.9%
親と未婚の子ども(核家族)	459	43.6%
親と子ども家族(二世世代家族)	80	7.6%
その他	33	3.1%
無回答	2	0.2%
合計	1,052	

6. 一番下の子どもの状態

	回答数	構成比
1歳未満	33	5.8%
就学前児童	120	21.0%
小学生	92	16.1%
中学生	41	7.2%
高校生	39	6.8%
大学生・短大・各種学校	63	11.0%
社会人	156	27.3%
その他	14	2.4%
無回答	14	2.4%
合計	572	

7. 職業等

	回答数	構成比
正規の社員・職員	502	47.7%
非正規の社員・職員 (契約・派遣)	95	9.0%
パート・アルバイト	116	11.0%
自営業	58	5.5%
フリーランス	51	4.8%
専業主婦・主夫	90	8.6%
学生	9	0.9%
無職	120	11.4%
その他	9	0.9%
無回答	2	0.2%
合計	1,052	

8. 居住年数

	回答数	構成比
1年未満	19	1.8%
1年～3年未満	65	6.2%
3年～10年未満	280	26.6%
10年～20年未満	223	21.2%
20年以上	462	43.9%
わからない	0	0.0%
無回答	3	0.3%
合計	1,052	

調査結果の詳細

1. 男女共同参画社会の推進について

(1) 男女の地位【問1】

※回答について、一部1位を薄い黄色、2位を黄色付けしています。

	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	無回答
家庭	575	399	75	3
教育(学校・教育機会の場)	304	701	37	10
職場	643	323	75	11
社会通念・慣習・しきたり	837	149	58	8
社会活動 (地域活動・PTAなど)	493	420	123	16
政治の場	917	103	28	4
法律や制度	631	325	90	6
社会全体	782	177	84	9

	どちらかとい えば男性が 優遇されて いる	平等になっ ている	どちらかとい えば女性が 優遇されて いる	無回答
家庭	54.7%	37.9%	7.1%	0.3%
教育(学校・教育機会の場)	28.9%	66.6%	3.5%	1.0%
職場	61.1%	30.7%	7.1%	1.0%
社会通念・慣習・しきたり	79.6%	14.2%	5.5%	0.8%
社会活動 (地域活動・PTAなど)	46.9%	39.9%	11.7%	1.5%
政治の場	87.2%	9.8%	2.7%	0.4%
法律や制度	60.0%	30.9%	8.6%	0.6%
社会全体	74.3%	16.8%	8.0%	0.9%

(2) 男女共同参画に関する知識【問2】

	内容を知っ ている	聞いたこと はある	知らない	無回答
狛江市男女共同参画推進 計画	57	399	594	2
男女共同参画社会基本法	193	442	414	3
女性活躍推進法	167	544	339	2
配偶者暴力防止法(DV防 止法)	332	630	88	2
児童虐待防止法	425	592	28	7
育児・介護休業法	523	457	67	5
政治分野における男女共 同参画推進法	116	551	378	7
困難な問題を抱える女性へ の支援に関する法律	91	430	523	8
パートナーシップ宣誓制度	206	493	347	6
ジェンダー(社会的・文化的 に形成された性別)	608	397	43	4
ダイバーシティ(多様性)	573	414	60	5
ポジティブ・アクション(積極 的改善措置)	121	374	551	6
セクシュアル・マイノリティ (性的少数者)	656	352	39	5
エンパワーメント	212	441	395	4
ジェンダー・イクオリティ	192	388	468	4
SOGI(性的指向・性自認)	207	341	499	5
アンコンシャス・バイアス	295	312	437	8
パタニティ・ハラスメント	212	330	505	5

	内容を知っている	聞いたことはある	知らない	無回答
狛江市男女共同参画推進計画	5.4%	37.9%	56.5%	0.2%
男女共同参画社会基本法	18.3%	42.0%	39.4%	0.3%
女性活躍推進法	15.9%	51.7%	32.2%	0.2%
配偶者暴力防止法(DV防止法)	31.6%	59.9%	8.4%	0.2%
児童虐待防止法	40.4%	56.3%	2.7%	0.7%
育児・介護休業法	49.7%	43.4%	6.4%	0.5%
政治分野における男女共同参画推進法	11.0%	52.4%	35.9%	0.7%
困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	8.7%	40.9%	49.7%	0.8%
パートナーシップ宣誓制度	19.6%	46.9%	33.0%	0.6%
ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)	57.8%	37.7%	4.1%	0.4%
ダイバーシティ(多様性)	54.5%	39.4%	5.7%	0.5%
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	11.5%	35.6%	52.4%	0.6%
セクシュアル・マイノリティ(性的少数者)	62.4%	33.5%	3.7%	0.5%
エンパワーメント	20.2%	41.9%	37.5%	0.4%
ジェンダー・イクオリティ	18.3%	36.9%	44.5%	0.4%
SOGI(性的指向・性自認)	19.7%	32.4%	47.4%	0.5%
アンコンシャス・バイアス	28.0%	29.7%	41.5%	0.8%
パタニティ・ハラスメント	20.2%	31.4%	48.0%	0.5%

(3) 学校における男女共同参画の推進について必要なこと【問3】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
男女共同参画の意識を育てる授業をする	200	264	468	男女共同参画の意識を育てる授業をする	46.3%	43.8%	44.5%
生活指導や進路指導に、性別で差異が出ないように配慮する	183	279	469	生活指導や進路指導に、性別で差異が出ないように配慮する	42.4%	46.3%	44.6%
男女平等教育に関する教員研修を行う	141	168	312	男女平等教育に関する教員研修を行う	32.6%	27.9%	29.7%
校長、副校長など、指導的立場の職の男女比の偏りを改善する	135	255	396	校長、副校長など、指導的立場の職の男女比の偏りを改善する	31.3%	42.3%	37.6%
性に関する学習機会や相談体制を充実させる	123	183	317	性に関する学習機会や相談体制を充実させる	28.5%	30.3%	30.1%
多様な家庭や家族のあり方について学ぶ	148	265	420	多様な家庭や家族のあり方について学ぶ	34.3%	43.9%	39.9%
人権の尊重を基礎とした個人の尊厳を啓発する	168	251	427	人権の尊重を基礎とした個人の尊厳を啓発する	38.9%	41.6%	40.6%
学校教育の中で、男女共同参画の推進を行う必要はない	33	15	48	学校教育の中で、男女共同参画の推進を行う必要はない	7.6%	2.5%	4.6%

(4) 女性の参画を推進するために必要なこと【問4】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
社会全体の性別による役割分担や性差別の意識をなくすこと	243	412	666
男性優位の組織運営をなくすこと	213	395	618
家庭の支援・協力を得ること	149	250	406
女性の能力活用の機会を増やすこと	160	212	377
女性側が積極性を持つこと	105	116	222
女性の参画への理解者を増やすこと	139	204	351
わからない	16	9	25
その他	15	20	36
無回答	0	0	6

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
社会全体の性別による役割分担や性差別の意識をなくすこと	56.3%	68.3%	63.3%
男性優位の組織運営をなくすこと	49.3%	65.5%	58.7%
家庭の支援・協力を得ること	34.5%	41.5%	38.6%
女性の能力活用の機会を増やすこと	37.0%	35.2%	35.8%
女性側が積極性を持つこと	24.3%	19.2%	21.1%
女性の参画への理解者を増やすこと	32.2%	33.8%	33.4%
わからない	3.7%	1.5%	2.4%
その他	3.5%	3.3%	3.4%
無回答	0.0%	0.0%	0.6%

(その他)

- ・ 個人の実力を測って人材を用いる文化づくり。女性を強調するのも男性を強調するのも違うと思う。
- ・ 家事育児支援（家事タスク管理や料理術等のサポート支援）、男性の育児参加
- ・ 育児休暇後のキャリアプランの男女公平性
- ・ 男性的価値観を前提とした考え方を改め、多様なあり方を理解し受け入れる意識改革と仕組み作り
- ・ 職場の理解、男性の女性的とされる役割への参加意欲等を深めること
- ・ 今いる政治家は高齢の男性が多いので、定年制を導入して、少しでも女性を参入させてほしい。
- ・ 問題の元に女性になる場合が多いので優位させすぎないことが重要。
- ・ 性別に関わらず同じ責任感を持つこと
- ・ 妊娠や子育てに関する支援を充実させて、復職（復帰等）ができる環境をつくる。
- ・ まず参画する時間的猶予を持つべくいつでも安心して子供を預けられる体制を整えること
- ・ 保育施設の充実と拡充
- ・ 男女差別はないと思っています。一部の方々が騒いでいるだけ。人で評価、判断すべき。
- ・ 道徳、性教育を見直すべき。男、女ではなく、人として他人を見下したりせず、尊敬や思いやりを持つべき。
- ・ どこでも子どもを連れて行けること
- ・ 女性が逆に優遇されて過ぎており、国策でもあるため苦しい思いをしてる男性は我慢している。選択肢に女性優遇を改善という項目がないのも無意識的な差別である。
- ・ 共働き世代を前提とした社会の制度にすること
- ・ 保育所や学童、介護施設を金銭負担少なく利用できること
- ・ 意思決定者の性別割合を同数にする。
- ・ 女性に限らないことですが、育児、介護、病気などで離職したりしても、それを”キャリアのブランク期間”としてマイナス面に捉えない社会全体の価値観を変えることが必要だと思います。
- ・ 差別を議論している段階で差別が存在している。年齢、性別ではなく、努力、能力で判断する環境にしなければ、何も変わらないと思う。変わるべきは、現在の組織の評価する側の教育だと思います。

2. 就労環境、ワーク・ライフ・バランスについて

(1) 仕事の内容や待遇面での不平等【問5】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
女性の昇進・昇格が遅い、または望めない	49	144	196	女性の昇進・昇格が遅い、または望めない	11.3%	23.9%	18.6%
女性の採用が少ない	87	44	133	女性の採用が少ない	20.1%	7.3%	12.6%
同期・同年齢で入社した男性と女性との間に賃金格差がある	28	79	108	同期・同年齢で入社した男性と女性との間に賃金格差がある	6.5%	13.1%	10.3%
育児・介護休業などを取りづらい雰囲気がある	44	82	127	育児・介護休業などを取りづらい雰囲気がある	10.2%	13.6%	12.1%
仕事内容や教育・訓練の内容で男女に差がある	33	62	96	仕事内容や教育・訓練の内容で男女に差がある	7.6%	10.3%	9.1%
セクシュアル・ハラスメントがある	21	52	75	セクシュアル・ハラスメントがある	4.9%	8.6%	7.1%
女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある	25	47	75	女性が結婚や出産を機に退職する慣習がある	5.8%	7.8%	7.1%
女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある	9	30	39	女性が長く就労することを歓迎しない雰囲気がある	2.1%	5.0%	3.7%
会議などの方針決定の場に女性が参加できない傾向がある	14	38	54	会議などの方針決定の場に女性が参加できない傾向がある	3.2%	6.3%	5.1%
女性に対してお茶くみ、コピー、掃除などが期待される	19	47	71	女性に対してお茶くみ、コピー、掃除などが期待される	4.4%	7.8%	6.7%
その他	24	36	62	その他	5.6%	6.0%	5.9%
男性と女性で仕事の内容や待遇面は平等である	189	175	370	男性と女性で仕事の内容や待遇面は平等である	43.8%	29.0%	35.2%
就労していない	78	118	199	就労していない	18.1%	19.6%	18.9%
無回答	39	53	93	無回答	9.0%	8.8%	8.8%

(その他)

- ・家事や育児、妊娠・出産の負担がない、あるいは少なく、長時間働ける男性の方が業績を積み上げやすい仕事のため、正規雇用には男性、非正規雇用に女性が多く、待遇の面で大きな差がある。
- ・自営業なので該当しない。
- ・女性が多すぎて男性が過度に配慮しなければいけない職場なのでその点についてはストレスを感じる。
- ・基本的には差がないが、女性と男性では仕事にかけられる時間が大きく異なりそこから生まれる差があると感じる。
- ・女性の方が管理職前までの出世は早いと思う。しかし、管理職試験になると女性が受けなくなっているの、管理職の女性はほとんどいない状況である。
- ・人手不足により休暇が取りづらい。
- ・保育園が決まらずに復帰できず、本人の意思によらずキャリアに空白が生まれることがある。
- ・男性の育休が取りづらい。男性だからと男性に残業をさせる。休日出勤も男性にさせる。女性だからやらなくてよい、男がやればよいと言いつつ女性がいる。責任感を持って働いている多くの女性の足を引っ張っている。
- ・若手では男女で待遇の違いはないようだが、長い目で見ると男性の方が出世している感はある。

(2) 女性が職業に就くこと【問6】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
結婚・出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい	293	446	754
結婚するまでは職業に就くが、結婚したら辞めるほうがよい	2	4	6
子どもができるまでは職業に就くが、子どもができたら辞めるほうがよい	8	7	15
子どもができたら辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい	78	88	168
女性は職業に就かないほうがよい	4	4	8
その他	44	51	95
無回答	3	3	6

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
結婚・出産にかかわらず職業を持ち続けるほうがよい	67.8%	74.0%	71.7%
結婚するまでは職業に就くが、結婚したら辞めるほうがよい	0.5%	0.7%	0.6%
子どもができるまでは職業に就くが、子どもができたら辞めるほうがよい	1.9%	1.2%	1.4%
子どもができたら辞めるが、子どもが成長したら再び職業に就くほうがよい	18.1%	14.6%	16.0%
女性は職業に就かないほうがよい	0.9%	0.7%	0.8%
その他	10.2%	8.5%	9.0%
無回答	0.7%	0.5%	0.6%

(その他)

- ・人によって事情が違うので一概に言えない。本人の意思が尊重されたらよい。
- ・出産後も仕事を続けるか子育てに専念するか、またはいつまでどのような働き方をするのかを見えない社会的な圧力や家庭内のパワーバランスによってではなく、女性自らが主体的に決められるようになるべき。
- ・その時々ライフスタイルや体調によって選べるよい。
- ・時期に関係なく、個人のタイミングで職業に就ける環境作り、社会作りが必要

(3) ワーク・ライフ・バランスの状態【問7】

		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
仕事を優先	希望	2	10	13
	現実	129	118	257
家庭生活を優先	希望	47	59	110
	現実	38	143	182
個人の生活を優先	希望	36	55	95
	現実	37	27	66
仕事と家庭生活を優先	希望	105	78	183
	現実	94	135	230
仕事と個人の生活を優先	希望	20	43	63
	現実	31	48	81
家庭生活と個人の生活を優先	希望	37	71	109
	現実	23	49	72
仕事と家庭生活と個人の生活を両立	希望	182	284	473
	現実	72	74	147
無回答	希望	3	3	6
	現実	8	9	17

		全体 (n=1,052)	女性 (n=603)	男性 (n=432)
仕事を優先	希望	1.2%	1.7%	0.5%
	現実	24.4%	19.6%	29.9%
家庭生活を優先	希望	10.5%	9.8%	10.9%
	現実	17.3%	23.7%	8.8%
個人の生活を優先	希望	9.0%	9.1%	8.3%
	現実	6.3%	4.5%	8.6%
仕事と家庭生活を優先	希望	17.4%	12.9%	24.3%
	現実	21.9%	22.4%	21.8%
仕事と個人の生活を優先	希望	6.0%	7.1%	4.6%
	現実	7.7%	8.0%	7.2%
家庭生活と個人の生活を優先	希望	10.4%	11.8%	8.6%
	現実	6.8%	8.1%	5.3%
仕事と家庭生活と個人の生活を両立	希望	45.0%	47.1%	42.1%
	現実	14.0%	12.3%	16.7%
無回答	希望	0.6%	0.5%	0.7%
	現実	1.6%	1.5%	1.9%

(4) ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと【問8】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
長時間労働の削減	199	262	471	長時間労働の削減	46.1%	43.4%	44.8%
フレックスタイム・テレワーク等の柔軟な働き方の整備	223	328	564	フレックスタイム・テレワーク等の柔軟な働き方の整備	51.6%	54.4%	53.6%
育児・介護休業制度の普及	98	113	214	育児・介護休業制度の普及	40.7%	35.0%	37.4%
保育・介護の施設やサービスの充実	123	181	308	保育・介護の施設やサービスの充実	28.5%	30.0%	29.3%
職場や上司の理解・協力	176	211	393	職場や上司の理解・協力	15.0%	21.9%	19.0%
再就職・再チャレンジに関する施策の充実	71	133	208	再就職・再チャレンジに関する施策の充実	19.9%	19.4%	19.5%
「男は仕事、女は家庭」という社会通念の改善	56	159	219	「男は仕事、女は家庭」という社会通念の改善	22.7%	18.7%	20.3%
家族の理解・協力	65	132	200	家族の理解・協力	16.4%	22.1%	19.8%
地域全体での子育て・見守り、助け合いの体制づくり	86	117	205	地域全体での子育て・見守り、助け合いの体制づくり	13.0%	26.4%	20.8%
その他	30	22	52	その他	6.9%	3.6%	4.9%

(その他)

- ・ 将来不安のない人生を送れるだけの安定した収入で心に余裕が持てる事、賃金の向上
- ・ 有休を含めた各種休暇を取りやすい職場の環境づくり、人員にゆとりのある職場づくり
- ・ 厳格な罰則を設けた制度設計。会社、上司の理解ではなく権利を主張されたら応じなければならぬ制度を作ればいいのか。
- ・ 個人の自由の尊重
- ・ まず多様性、個の尊重に関する教育を進めてほしい。

(5) 在宅勤務等遠隔での勤務経験【問9】

	構成比	回答数
ある	46.6%	490
ない	49.0%	516
もともと在宅で仕事している	2.9%	31
無回答	1.4%	15

	男性(n=432)	女性(n=603)
ある	53.9%	41.3%
ない	42.8%	53.4%
もともと在宅で仕事している	2.5%	3.3%
無回答	0.7%	2.0%

(6) 直近1年間のテレワークの頻度【問10】

	構成比	回答数
週に5~6回	18.2%	95
週に2~4回	32.6%	170
週に1回	10.9%	57
週に1回未満(月に数回)	35.7%	186
無回答	2.5%	13

	男性(n=244)	女性(n=269)
週に5~6回	19.3%	17.5%
週に2~4回	31.1%	34.2%
週に1回	9.8%	12.3%
週に1回未満(月に数回)	36.5%	34.2%
無回答	3.3%	1.9%

(7) テレワークによる仕事時間の変化【問11】

	構成比	回答数
短くなった	46.3%	241
長くなった	7.5%	39
変わらない	32.2%	168
無回答	14.0%	73

	男性(n=244)	女性(n=269)
短くなった	48.4%	43.5%
長くなった	7.8%	7.4%
変わらない	32.4%	32.7%
無回答	11.5%	16.4%

(8) テレワークにより仕事時間が減った場合の時間の使い方【問12】

	構成比	回答数
家事・育児	14.5%	153
家族との時間	14.4%	151
自分の時間	26.4%	278
無回答	44.7%	470

	男性(n=432)	女性(n=603)
家事・育児	13.2%	15.6%
家族との時間	19.0%	11.1%
自分の時間	28.9%	24.5%
無回答	38.9%	48.8%

3. 家事、育児、介護について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方【問13】

	構成比	回答数
そう思う	4.9%	52
そうは思わない	70.8%	745
どちらともいえない	23.9%	251
無回答	0.4%	4

	男性(n=432)	女性(n=603)
そう思う	6.5%	4.0%
そうは思わない	65.0%	74.6%
どちらともいえない	28.2%	20.9%
無回答	0.2%	0.5%

(2) 家庭内での役割【問14】

	主に妻	主に妻で夫が協力	共に協力	主に夫で妻が協力	主に夫	無回答
仕事(収入)	4	22	763	200	56	7
掃除・洗濯	51	145	817	21	10	8
買物	46	163	799	24	9	11
炊事(支度・片づけ)	62	190	764	15	6	15
地域活動 (PTAや町内会など)	57	85	826	41	27	16
育児(世話・しつけ)	28	129	869	6	2	18
親の介護	20	34	932	23	13	30

	主に妻	主に妻で夫が協力	共に協力	主に夫で妻が協力	主に夫	無回答
仕事(収入)	0.4%	2.1%	72.5%	19.0%	5.3%	0.7%
掃除・洗濯	4.8%	13.8%	77.7%	2.0%	1.0%	0.8%
買物	4.4%	15.5%	76.0%	2.3%	0.9%	1.0%
炊事(支度・片づけ)	5.9%	18.1%	72.6%	1.4%	0.6%	1.4%
地域活動 (PTAや町内会など)	5.4%	8.1%	78.5%	3.9%	2.6%	1.5%
育児(世話・しつけ)	2.7%	12.3%	82.6%	0.6%	0.2%	1.7%
親の介護	1.9%	3.2%	88.6%	2.2%	1.2%	2.9%

(3) 家事や育児、介護・看護に携わる時間【問15】

		0時間	1時間未満	1時間以上5時間未満	5時間以上10時間未満	10時間以上	無回答
介護・看護	休日	637	17	97	22	7	272
	平日	659	21	78	9	7	278
育児	休日	499	11	155	83	102	202
	平日	515	28	235	61	26	187
家事	休日	19	29	711	177	28	88
	平日	28	83	739	100	17	85

		0時間	1時間未満	1時間以上5時間未満	5時間以上10時間未満	10時間以上	無回答
介護・看護	休日	60.6%	1.6%	9.2%	2.1%	0.7%	25.9%
	平日	62.6%	2.0%	7.4%	0.9%	0.7%	26.4%
育児	休日	47.4%	1.0%	14.7%	7.9%	9.7%	19.2%
	平日	49.0%	2.7%	22.3%	5.8%	2.5%	17.8%
家事	休日	1.8%	2.8%	67.6%	16.8%	2.7%	8.4%
	平日	2.7%	7.9%	70.2%	9.5%	1.6%	8.1%

(4) 家事等の負担感を減らすために重要なこと【問16】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
夫婦でよく話し合い、協力する	339	486	839	夫婦でよく話し合い、協力する	78.5%	80.6%	79.8%
お互いが感謝の気持ちを伝える	272	407	691	お互いが感謝の気持ちを伝える	63.0%	67.5%	65.7%
家事・育児スキルの向上	130	200	335	家事・育児スキルの向上	24.5%	33.8%	30.2%
家事・育児の外部サービスを利用する	125	237	370	家事・育児の外部サービスを利用する	28.9%	39.3%	35.2%
最新家電や便利グッズ等を活用する	106	204	318	最新家電や便利グッズ等を活用する	24.5%	33.8%	1.0%
テレワークの推進など、家庭と仕事の両立	164	280	454	テレワークの推進など、家庭と仕事の両立	38.0%	46.4%	43.2%
その他	16	26	42	その他	30.1%	33.2%	31.8%
無回答	3	7	10	無回答	38.0%	46.4%	43.2%

(その他)

- ・市での子育て支援
- ・男女間の収入格差の解消、女性が働き続けられる職場環境・社会環境の醸成
- ・妻への仕事家事育児の偏りを解消するという話であれば、妻が家事育児を全て請け負う前提で夫を仕事にフルコミットさせる社会構造を変えないと意味がない。女性も男性も働き過ぎ。子どもを大事に育てようという当たり前の意識を持った大人が政治家に少ないのが原因
- ・社会や企業の理解による精神的負担の軽減
- ・外部の手助けの利用
- ・お互いが対等である意識
- ・国が子どもの成長に必要な事（家族との会話、遊び、生活リズム）などをより多く公開し、浸透させること
- ・男性の意識を改める教育をする。
- ・会社の週休3日制、子育て世代の就労時間の短縮
- ・両親の協力
- ・長時間労働の改善
- ・公的外部サービスの設立

(5) 育児・介護休業取得【問17】

育児休業

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
取得経験がある	38	165	204	取得経験がある	8.8%	27.4%	19.4%
積極的に取得したい	37	57	98	積極的に取得したい	8.6%	9.5%	9.3%
必要が生じれば取得する	94	56	153	必要が生じれば取得する	21.8%	9.3%	14.5%
取得には抵抗がある	27	8	36	取得には抵抗がある	6.3%	1.3%	3.4%
必要がない	41	44	85	必要がない	9.5%	7.3%	8.1%
対象となる家族がいない	158	215	380	対象となる家族がいない	36.6%	35.7%	36.1%
わからない	31	42	74	わからない	7.2%	7.0%	7.0%
無回答	6	16	22	無回答	1.4%	2.7%	2.1%

介護休業

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
取得経験がある	6	22	29
積極的に取得したい	37	80	119
必要が生じれば取得する	153	218	378
取得には抵抗がある	28	21	51
必要がない	31	35	67
対象となる家族がいない	134	154	291
わからない	37	56	94
無回答	6	17	23

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
取得経験がある	1.4%	3.6%	2.8%
積極的に取得したい	8.6%	13.3%	11.3%
必要が生じれば取得する	35.4%	36.2%	35.9%
取得には抵抗がある	6.5%	3.5%	4.8%
必要がない	7.2%	5.8%	6.4%
対象となる家族がいない	31.0%	25.5%	27.7%
わからない	8.6%	9.3%	8.9%
無回答	1.4%	2.8%	2.2%

(6) 仕事と育児の両立のための子育て支援施策【問18】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
社会全体で子育てに関わるという啓発をする	211	322	539
職場で育児休業制度を取得できるよう理解促進を行う	207	299	516
親子で参加できるイベントを開催する	75	61	137
子どもの地域活動・スポーツ活動等に親を呼び込む活動を行う	52	37	91
親同士が気軽に交流できるイベントを企画・開催する	59	71	131
子育ての楽しさを伝えたり負担感を和らげるようなイベントや教室などを企画・開催する	52	90	146
子育てに関する知識や情報を発信する	63	133	202
その他	20	32	52

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
社会全体で子育てに関わるという啓発をする	48.8%	53.4%	51.2%
職場で育児休業制度を取得できるよう理解促進を行う	47.9%	49.6%	49.0%
親子で参加できるイベントを開催する	17.4%	10.1%	13.0%
子どもの地域活動・スポーツ活動等に親を呼び込む活動を行う	12.0%	6.1%	8.7%
親同士が気軽に交流できるイベントを企画・開催する	13.7%	11.8%	12.5%
子育ての楽しさを伝えたり負担感を和らげるようなイベントや教室などを企画・開催する	12.0%	14.9%	13.9%
子育てに関する知識や情報を発信する	14.6%	22.1%	19.2%
その他	4.6%	5.3%	4.9%

(その他)

- ・子育てだけでなく、家庭の大切さを啓蒙するべき
- ・管理職に向けて、子育て支援に関する研修を義務付ける(男女問わず子育てに関わる休暇を取りやすくする環境づくり、子がいる職員とそうでない職員との摩擦を減らす取組み、家庭環境に配慮した業務分担・人員配置について等)。
- ・具体的な収入サポート及び職場の完全な理解が不可欠。啓蒙とか運動とかの前に！！
- ・子育てに関する知識や情報を発信するだけでは、住民側の受け取る意欲に左右されてしまうので、半強制的に習得させるような仕組みはどうでしょう。例えば、パパママ教室のようなものの参加歴を、育児関係の支援金等の優遇条件にするなど
- ・父親の出産前からの関わり強化
- ・実際に子供を持つことにならないと実感は湧かないと思う。妊婦健診、両親学級など初めて親になる人たちへ知識や現状、制度の情報提供をすればよい。
- ・中学校、高校で、子育てや介護の基本技術習得を必修とする。

(7) 男性が介護を担うために必要なこと【問19】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
性別に関わりなく家族が助け合って介護を担うという意識づくり	193	325	527	性別に関わりなく家族が助け合って介護を担うという意識づくり	44.7%	53.9%	50.1%
不安を打ち明けられる相談の場づくりとその周知	47	55	108	不安を打ち明けられる相談の場づくりとその周知	10.9%	9.1%	10.3%
介護に関連した制度の周知と利用促進	146	151	304	介護に関連した制度の周知と利用促進	33.8%	25.0%	28.9%
男性が気軽に参加できるような介護講座の開催	49	65	117	男性が気軽に参加できるような介護講座の開催	11.3%	10.8%	11.1%
企業における労働時間の短縮、テレワーク、フレックスタイム等の導入	134	211	350	企業における労働時間の短縮、テレワーク、フレックスタイム等の導入	31.0%	35.0%	33.3%
男性が家事全般に対して積極的に分担することを推奨する取組み	84	216	301	男性が家事全般に対して積極的に分担することを推奨する取組み	19.4%	35.8%	28.6%
介護に関する知識や情報の発信	65	65	131	介護に関する知識や情報の発信	15.0%	10.8%	12.5%
その他	23	22	45	その他	5.3%	3.6%	4.3%
わからない	19	10	29	わからない	4.4%	1.7%	2.8%

(その他)

- ・ 介護の為に休暇を取る男性の収入を保証する事、またその職場で抜けた男性の分の穴を埋める人員の確保、仕事のフォローが出来る体制を企業がとること
- ・ 介護サポートの充実と費用の補助
- ・ 男性を子どもの時からの教育する、女の仕事と思っている男性の意識を変える。
- ・ 知識向上や子供の頃からの体験も有効かと思う。
- ・ 医療介護制度の改革
- ・ 収入、給料面の保証
- ・ 職場の人手不足改善。長期で休みを取ると、業務が滞るという意識があり、男性が介護にまで手が回るほどの余裕がない。
- ・ 介護はそもそも、外部にお願いできるようにするべき
- ・ 介護を家族で負担するのではなく、増税でも自治体によるサポートの方がよいと思う。
- ・ 介護休暇取得を企業が拒否できないようにする。
- ・ 介護の知識
- ・ 介護による休業や時短が発生した場合の所得補償(社会保険料および税金免除として月額給与額面の7~8割支給)
- ・ 性別等に関わらず被介護者が安心して介護者に任せられる人間関係、心の繋がり
- ・ 夫婦のみが抱えるのではなく、役所や私営サービス等、第三者の力を積極的に借りる手段を豊富に用意し、周知すること

4. ドメスティック・バイオレンスについて

(1) ドメスティック・バイオレンスの経験【問20】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
命の危険を感じるくらい の暴力を受ける	2	12	14	命の危険を感じるくらい の暴力を受ける	0.5%	2.0%	1.3%
医師の治療が必要となる 暴力を受ける	2	13	15	医師の治療が必要となる 暴力を受ける	0.5%	2.2%	1.4%
治療が必要ではない程 度の暴力を受ける	12	48	61	治療が必要ではない程 度の暴力を受ける	2.8%	8.0%	5.8%
嫌がっているのに性的行 為を強要する	0	32	33	嫌がっているのに性的行 為を強要する	0.0%	5.3%	3.1%
見たくないのにポルノビ デオやポルノ雑誌を見せ る	1	7	9	見たくないのにポルノビ デオやポルノ雑誌を見せ る	0.2%	1.2%	0.9%
避妊に協力しない	0	35	37	避妊に協力しない	0.0%	5.8%	3.5%
何を言っても長時間無視 し続ける	20	43	64	何を言っても長時間無視 し続ける	4.6%	7.1%	6.1%
交友関係や電話、メール を細かく監視する	8	23	32	交友関係や電話、メール を細かく監視する	1.9%	3.8%	3.0%
言葉による暴力を受ける	27	92	124	言葉による暴力を受ける	6.3%	15.3%	11.8%
「女・男のくせに」「女・男 だから」と差別的な言い 方をされる	14	44	60	「女・男のくせに」「女・男 だから」と差別的な言い 方をされる	3.2%	7.3%	5.7%
大声でどなる	24	92	121	大声でどなる	5.6%	15.3%	11.5%
生活費を渡さないなど、 経済的に押さえつけられ る	3	27	38	生活費を渡さないなど、 経済的に押さえつけられ る	0.7%	4.5%	3.6%
上記のようなことをされた ことはない	360	408	779	上記のようなことをされた ことはない	83.3%	67.7%	74.0%
無回答	9	17	27	無回答	2.1%	2.8%	2.6%

(2) 相談の有無【問20-1】

	構成比	回答数		男性(n=63)	女性(n=178)
相談した	33.7%	83	相談した	20.6%	38.2%
相談しなかった	62.2%	153	相談しなかった	73.0%	58.4%
無回答	4.1%	10	無回答	6.3%	3.4%

(3) 相談先【問20-1-1】

	構成比	回答数
警察	7.2%	6
公的機関(市や都の相談 窓口等)	12.0%	10
民間の機関(専門家、カ ウンセラー等)	18.1%	15
医療関係者(医師、看護 師等)	10.8%	9
家族・親族	41.0%	34
友人・知人	71.1%	59
その他	2.4%	2

(その他) 会社の上司

(4) 相談しなかった理由【問20-1-2】

	構成比	回答数
誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから	22.9%	35
恥ずかしかったから	14.4%	22
相談しても無駄だと思ったから	39.2%	60
相談したことがわかると仕返しをされると思ったから	7.8%	12
相談することによって不快な思いをすと思ったから	18.3%	28
自分さえ我慢すれば、何とかやっつけていけると思ったから	24.8%	38
世間体が悪いから	4.6%	7
他人を巻き込みたくなかったから	15.0%	23
被害を受けたことを忘れたかったから	5.9%	9
自分にも悪いところがあると思ったから	22.2%	34
相談するほどのことではないと思ったから	32.0%	49
その他	5.2%	8
無回答	2.0%	3

(その他)

- ・自分も言い返したから。
- ・言い返せるし、まだそこまででもないから。
- ・別れればいだけと思ったから。
- ・離れるべき、別れるべきなのは十分分かってきたから。
- ・別れたから。
- ・離婚しようと思ったから。
- ・人に相談する習慣がない。
- ・面倒くさかった。

(5) 【問21：その他の相談窓口】

- ・必要な場合は自分で調べる。
- ・民間のカウンセリング
- ・男性
- ・企業内相談窓口

(5) 暴力に関する相談先の認知【問21】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
女性のためのカウンセリング、こころのカウンセリング、人権身の上相談(狛江市)	49	153	208
ひとり親相談、女性相談(狛江市)	34	139	176
警察署	287	411	711
DV相談ナビ(内閣府)	46	102	155
東京都女性相談センター	30	112	148
東京ウィメンズプラザ(「男性のための悩み相談」も含む)	35	96	137
警察庁総合相談センター(相談ホットライン)	71	62	136
女性の人権ホットライン(東京法務局)	36	110	154
公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク	38	42	83
その他の相談窓口	10	0	17
どこも知らない	107	98	207

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
女性のためのカウンセリング、こころのカウンセリング、人権身の上相談(狛江市)	11.3%	25.4%	19.8%
ひとり親相談、女性相談(狛江市)	7.9%	23.1%	16.7%
警察署	66.4%	68.2%	67.6%
DV相談ナビ(内閣府)	10.6%	16.9%	14.7%
東京都女性相談センター	6.9%	15.9%	14.1%
東京ウィメンズプラザ(「男性のための悩み相談」も含む)	8.1%	18.2%	13.0%
警察庁総合相談センター(相談ホットライン)	16.4%	10.3%	12.9%
女性の人権ホットライン(東京法務局)	8.3%	18.2%	14.6%
公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク	8.8%	7.0%	7.9%
その他の相談窓口	2.3%	0.0%	1.6%
どこも知らない	24.8%	16.3%	19.7%

(6) 暴力に対する対策や支援に必要なこと【問22】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
相談機関の増設、質的な向上、連携体制の強化	142	156	305	相談機関の増設、質的な向上、連携体制の強化	32.9%	25.9%	29.0%
相談機関についてのPR	110	114	227	相談機関についてのPR	25.5%	18.9%	21.6%
被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所(シェルター)の確保	160	302	475	被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所(シェルター)の確保	37.0%	50.1%	45.2%
被害者とその子どもが安定した生活を確保するまで安全に暮らせる住宅の確保	96	221	319	被害者とその子どもが安定した生活を確保するまで安全に暮らせる住宅の確保	22.2%	36.7%	30.3%
緊急時の生活費の支援制度の充実	113	196	314	緊急時の生活費の支援制度の充実	26.2%	32.5%	29.8%
警察の積極的な対応	194	209	409	警察の積極的な対応	44.9%	34.7%	38.9%
配偶者暴力防止法の周知・PR	20	27	47	配偶者暴力防止法の周知・PR	4.6%	4.5%	4.5%
暴力を振るう側の教育(人権教育、カウンセリング)	52	157	213	暴力を振るう側の教育(人権教育、カウンセリング)	12.0%	26.0%	20.2%
配偶者や交際相手からの暴力は犯罪であるという意識づくりのための啓発活動	67	142	215	配偶者や交際相手からの暴力は犯罪であるという意識づくりのための啓発活動	15.5%	23.5%	20.4%
その他	16	17	33	その他	6.7%	3.8%	4.9%
わからない	29	23	52	わからない	3.7%	2.8%	3.1%

(その他)

- ・暴力を振るう側の男性が家に入れないようにするような厳しい対応。今は暴力、暴言を振るわれた女性側が家を出ないといけないおかしい対応。悪い事は悪いのだから、社会的に厳しい対応が待っていれば男も迂闊には手を出してこないはず。女性、子どもが舐められている社会の構造を変えるしかない。
- ・閉ざされた環境では何度でも繰り返されるため、家族ごと常に誰かが見える環境にあるべき。例えばサポーターや支援者もいるシェアハウスのような環境であれば暴力は防げると思う。あとは、夫婦カウンセリング
- ・マイナンバーに犯罪歴性犯罪などの紐付け 発達障害などの女性を守る制度
- ・男性用の相談窓口の拡充
- ・親との同居を増やす。若い頃から、いろいろな年代の人と交流を持つ機会を沢山作る。同年代で固まらない社会を作る。田舎の環境が良いと思う。田舎の出身の方が、思いやりの有る人が多いと感じている。大人に成ってからでは、身に付き難い感覚だと思う。
- ・学校教育
- ・逃げた場所での徹底した守秘義務
- ・刑の厳罰化
- ・暴力的な相手を選ぶ個人にも責任はある。恋人を作るのもDV交際者を作ったのも自分。まずは自衛。他責思考をしない。

5. ハラスメント、ストーカーについて

(1) ハラスメントの経験【問23】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
セクシュアル・ハラスメント	21	218	247
マタニティ・ハラスメント、 パタニティ・ハラスメント	8	45	55
モラル・ハラスメント	80	151	238
SOGI(性的指向・性自認)ハラスメント	3	9	14
その他	16	22	40
受けたことはない	323	280	610
無回答	6	5	11

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
セクシュアル・ハラスメント	4.9%	36.2%	23.5%
マタニティ・ハラスメント、 パタニティ・ハラスメント	1.9%	7.5%	5.2%
モラル・ハラスメント	18.5%	25.0%	22.6%
SOGI(性的指向・性自認)ハラスメント	0.7%	1.5%	1.3%
その他	3.7%	3.6%	3.8%
受けたことはない	74.8%	46.4%	58.0%
無回答	1.4%	0.8%	1.0%

(その他)

- ・パワー・ハラスメント
- ・アカデミック・ハラスメント
- ・カスタマー・ハラスメント

(2) セクシュアル・ハラスメントの経験【問24】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
性的な話をする、質問をする	30	155	192
容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする	45	212	265
性差別的な発言をする (「男・女のくせに」、「おじさん、おばさん」等)	34	155	194
裸の写真・雑誌等を職場等で見る、わざと見せる	3	9	13
不必要に身体をさわる	15	117	136
宴席等でお酌などを強要する、席を設定する	18	116	136
執拗に交際を求める、性的な関係を迫る	4	44	55
不快な思いをしたことはない	335	234	573
その他	6	7	13
無回答	11	14	25

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
性的な話をする、質問をする	6.9%	25.7%	18.3%
容姿や年齢、身体的な特徴について話題にする	10.4%	35.2%	25.2%
性差別的な発言をする (「男・女のくせに」、「おじさん、おばさん」等)	7.9%	25.7%	18.4%
裸の写真・雑誌等を職場等で見る、わざと見せる	0.7%	1.5%	1.2%
不必要に身体をさわる	3.5%	19.4%	12.9%
宴席等でお酌などを強要する、席を設定する	4.2%	19.2%	12.9%
執拗に交際を求める、性的な関係を迫る	0.9%	7.3%	5.2%
不快な思いをしたことはない	77.5%	38.8%	54.5%
その他	1.4%	1.2%	1.2%
無回答	2.5%	2.3%	2.4%

(その他)

- ・妻子持ちの人にしつこく食事に誘われる。
- ・気がつくとき見られている、避けても視界に入ってくる。
- ・職場で電話攻撃を受けた。
- ・自宅に突然上司が押し掛けてくる。
- ・女性活躍が謳われているので、女だから昇進できるだろうと言われた。
- ・服装に関して言われる。
- ・未婚であることや出産経験がないことを「人としての浅さ」と指摘され、「結婚すれば分かること」「親になれば分かること」と指導された。

(3) セクシュアル・ハラスメントの対策【問25】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
公的なチェック・指導機関の強化	106	143	253
公的な相談・カウンセリング窓口の強化	102	139	245
民間団体による監視や相談活動	34	40	75
最新情報、適切な情報の提供	66	91	160
法律や条例などの強化	111	182	299
刑罰や制裁の適用	119	193	318
職場や学校での監視や相談機能の充実	136	187	329
その他	20	27	47
わからない	34	37	72

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
公的なチェック・指導機関の強化	24.5%	23.7%	24.0%
公的な相談・カウンセリング窓口の強化	23.6%	23.1%	23.3%
民間団体による監視や相談活動	7.9%	6.6%	7.1%
最新情報、適切な情報の提供	15.3%	15.1%	15.2%
法律や条例などの強化	25.7%	30.2%	28.4%
刑罰や制裁の適用	27.5%	32.0%	30.2%
職場や学校での監視や相談機能の充実	31.5%	31.0%	31.3%
その他	4.6%	4.5%	4.5%
わからない	7.9%	6.1%	6.8%

(その他)

- ・ハラスメントギリギリなグレーな対応する人がいることの認知
- ・コミュニケーション能力を養う。
- ・セクハラをしている当事者の教育
- ・その場で注意できる環境を整える。
- ・幼少期の家庭環境
- ・マイナンバー紐付け
- ・子どもの頃からの教育と接触を伴うハラスメント(暴力、性的行為)の厳罰化
- ・職場での厳しい対応。職場内で地位のある者においても、ハラスメントは一発アウト。たとえ仕事ができる人でも、直ちに処分を行い、被害者を保護する。
- ・男性優遇の雇用システムの改善
- ・セクハラ of 具体的事例共有
- ・何がダメなのか等正しい理解のための教育
- ・加害側(にならないための)への教育指導
- ・より具体的な事例のメディアでの発信

(4) ストーカー行為を受けた経験【問26】

	構成比	回答数
現在、受けている	0.3%	3
過去に受けたことがある	14.7%	155
受けたことはない	83.8%	882
無回答	1.1%	12

	男性 (n=432)	女性 (n=603)
現在、受けている	0.2%	0.3%
過去に受けたことがある	4.6%	21.7%
受けたことはない	93.5%	77.3%
無回答	1.6%	0.7%

(5) 相談の有無【問26-1】

	構成比	回答数
相談した	48.7%	77
相談しなかった	51.3%	81
合計	100.0%	158

	男性(n=21)	女性 (n=133)
相談した	28.6%	51.9%
相談しなかった	71.4%	48.1%

(6) 相談先【26-1-1】

	構成比	回答数
警察	22.1%	17
公的機関(市や都の相談窓口等)	6.5%	5
民間の機関(弁護士等)	5.2%	4
家族・親族	39.0%	30
友人・知人	62.3%	48
その他	10.4%	8

(その他)

- ・学校の先生
- ・職場(内部通報)、会社の上司・同僚
- ・相手親族

(7) 相談しなかった理由【問26-1-2】

	構成比	回答数
誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから	22.2%	18
恥ずかしかったから	8.6%	7
相談しても無駄だと思ったから	39.5%	32
相談したことがわかると仕返しをされると思ったから	11.1%	9
相談することによって不快な思いをすと思ったから	14.8%	12
自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから	22.2%	18
世間体が悪いから	2.5%	2
他人を巻き込みたくなかったから	7.4%	6
被害を受けたことを忘れたかったから	2.5%	2
自分にも悪いところがあると思ったから	6.2%	5
相談するほどのことではないと思ったから	34.6%	28
その他	2.5%	2

(その他)

- ・はっきりと断りました。
- ・武力行使

6. セクシュアル・マイノリティ(LGBTなど)について

(1) 性についての悩みの有無【問27】

	構成比	回答数
悩んでいた(周囲に悩んでいる人がいた)	12.1%	127
悩んだことはない(周囲に悩んでいる人はいなかった)	87.1%	916
無回答	0.9%	9

	無回答 (n=17)	男性 (n=432)	女性 (n=603)
悩んでいた(周囲に悩んでいる人がいた)	52.9%	6.3%	15.1%
悩んだことはない(周囲に悩んでいる人はいなかった)	47.1%	92.6%	84.2%
無回答	0.0%	1.2%	0.7%

(2) セクシュアル・マイノリティの人々の人権を守るために必要な施策【問28】

	無回答 (n=17)	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
正しい理解を深めるための教育	12	246	404	662
正しい理解を深めるための啓発活動	9	180	254	443
相談・支援体制の充実	12	150	243	405
法律や制度の整備	9	159	275	443
多様性に配慮した設備対応	11	126	285	422
その他	0	12	19	31
特に必要なことはない	0	48	27	75
わからない	0	38	40	78

	無回答 (n=17)	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
正しい理解を深めるための教育	70.6%	56.9%	67.0%	62.9%
正しい理解を深めるための啓発活動	52.9%	41.7%	42.1%	42.1%
相談・支援体制の充実	70.6%	34.7%	40.3%	38.5%
法律や制度の整備	52.9%	36.8%	45.6%	42.1%
多様性に配慮した設備対応	64.7%	29.2%	47.3%	40.1%
その他	0.0%	2.8%	3.2%	2.9%
特に必要なことはない	0.0%	11.1%	4.5%	7.1%
わからない	0.0%	8.8%	6.6%	7.4%

(その他)

- ・上記に加えマイノリティの方の自己開示も今後必要になると思う。
- ・セクシャル・マイノリティの人々の人権を守るために大多数のセクシャル・マイノリティではない人々の人権を侵害しているということを当事者の方々は認識していただきたい。
- ・施設は不要。人権学習や話し合う場の醸成
- ・LGBT自体を意識することが異常な社会になっていると考える。十人十色という言葉を理解することが大事
- ・色々な考えや状況の人がいる、不正解はない、という当たり前の考え方の教育
- ・教育者が信頼できるかの試験制度も必要と考える。身体的性別と性自認を混同している人が多い。
- ・犯罪防止、偽物を認定しない。
- ・小中学生へのセクシュアル・マイノリティの教育は反対
- ・セクシャル・マイノリティを大切にすることも大事だが、そうではない人の考えも尊重してほしい。例えば、自称女性の心を持つ男性。性転換手術や男性機能が使えない状態で、女性の更衣室や入浴設備が同じなのは恐怖を感じる。この考えも考え方の一つで考慮されるべきだと思うが、無視されてマイノリティ重視の政策を勧められているのは理解できない。
- ・カテゴライズしすぎもよくないと思うので、やりすぎず婚姻制度などは同じようにしたらいいいと思います。
- ・優遇ではなく多様性を認める社会通念
- ・そうでない女性や子供を、自認する性が女という男から守る事を強化すべき。
- ・生物的な違いと心の違いは別であることへの教育

7. 社会参加について

(1) 活動への参加の有無【問29】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)		男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
趣味・習いごと・学習・スポーツ活動	185	308	501	趣味・習いごと・学習・スポーツ活動	42.8%	51.1%	47.6%
福祉活動や自然環境保護などのボランティア活動	36	83	122	福祉活動や自然環境保護などのボランティア活動	8.3%	13.8%	11.6%
子ども会などの地域活動	24	34	58	子ども会などの地域活動	5.6%	5.6%	5.5%
自治会・町内会などの地縁活動	67	72	142	自治会・町内会などの地縁活動	15.5%	11.9%	13.5%
消防団などの防災活動	12	9	22	消防団などの防災活動	2.8%	1.5%	2.1%
外国人との交流などの国際交流活動	5	26	36	外国人との交流などの国際交流活動	1.2%	4.3%	3.4%
市の審議会などの政策決定にかかわる活動	9	10	21	市の審議会などの政策決定にかかわる活動	2.1%	1.7%	2.0%
その他	9	5	14	その他	2.1%	0.8%	1.3%
どの活動にも参加していない	179	232	418	どの活動にも参加していない	41.4%	38.5%	39.7%

(その他)

- ・ P T A
- ・ 複数団体への継続的な少額寄付(難民、途上国の子供のチャイルドプラン、国境なき医師団、子ども食堂)
- ・ 大学の同窓会本部役員としての活動等

(2) 地域の活動や行事に参加するための条件【問29-1】

	男性 (n=179)	女性 (n=232)	全体 (n=418)		男性 (n=179)	女性 (n=232)	全体 (n=418)
仕事にゆとりがある	76	104	184	仕事にゆとりがある	42.5%	44.8%	44.0%
仲間がいる	38	32	71	仲間がいる	21.2%	13.8%	17.0%
健康である	70	82	156	健康である	39.1%	35.3%	37.3%
家族の理解がある	17	13	30	家族の理解がある	9.5%	5.6%	7.2%
経済的に余裕がある	57	78	138	経済的に余裕がある	31.8%	33.6%	33.0%
住居の近くに施設や活動の場がある	25	47	74	住居の近くに施設や活動の場がある	14.0%	20.3%	17.7%
参加したい内容のものがある	67	111	180	参加したい内容のものがある	37.4%	47.8%	43.1%
参加のきっかけがある	38	38	77	参加のきっかけがある	21.2%	16.4%	18.4%
活動の時間がある	30	62	94	活動の時間がある	16.8%	26.7%	22.5%
その他	3	2	5	その他	1.7%	0.9%	1.2%
活動するつもりはない	17	15	32	活動するつもりはない	9.5%	6.5%	7.7%
無回答	0	1	1	無回答	0.0%	0.4%	0.2%

(その他)

- ・ 双子なので祖父母を頼ることもできない。気軽に子どもを預けられるところがある。
- ・ 子育てが落ち着くともう少し参加できるかなと思います。可能ならば子どもと一緒にコミュニティに入っていきたいです。

8. 市の施策について

(1) 男女共同参画社会づくりのために重要な施策【問30】

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
男女共同参画についての学校教育の充実	56	66	311
男女共同参画に関する情報提供や学習機会の充実	39	55	243
女性の活躍推進に関連した取組みの推進	24	27	113
男性の家事、育児、介護等への参加と意識改革	35	89	302
相談体制の強化	26	26	137
健康づくりのための健診体制や相談事業の充実	20	21	117
政策決定・意思決定への女性の参画促進	16	42	132
市の審議会等への女性の登用推進	22	23	115
市内事業者との連携強化による良好な就労環境(ワーク・ライフ・バランス)の推進	18	22	102
セクシュアル・ハラスメントへの対策	7	7	46
就職希望者への支援	15	33	139
子育て支援サービスの充実(保育サービス、学童保育等)	30	69	272
介護サービスの充実(訪問介護、ショートステイ、施設サービス等)	19	47	173
防災におけるまちづくり(防災活動)での男女共同参画の推進	7	14	48
ドメスティック・バイオレンス(DV)やデートDV等への対策	3	8	30
暮らしやすい環境づくり(住宅、道路、公園等のバリアフリーの推進等)	19	34	171
セクシュアル・マイノリティに対する理解促進・環境整備	3	8	29
地域コミュニティでの男女共同参画の推進	6	10	49
啓発事業の推進による男女共同参画社会づくり	5	9	27
困難な問題を抱える女性への支援	14	32	101
その他	6	3	29

(その他)

- ・運動できる場所を増やし発散させるべき
- ・チロル堂の様な表向きは駄菓子屋、裏活動(裏でもないが)子ども食堂など二面性、三面性を持ったシェルターや場所づくり
- ・格差社会
- ・結果としては偏りがあるものの機会は平等だと感じているのだが、もし機会が平等でない物があるなら検討の対象とすべき
- ・パートナーシップ条例の施行
- ・病児保育園や学童の充実、日曜日や祝日などの休みの日の預け先の確保
- ・男女共同参画と称しているのに、女性支援っぽい事ばかりしていることに違和感。男女関係なく全ての市民が働きやすく生活しやすい環境にすればよい。
- ・施策提案だけでは実感がわからないので、ひとまず実行する企業を決めてモデルを立てれば後に続く人が理解しやすいと思います。
- ・担当する人や役所の人やる気。対応力、積極性だと思う。
- ・必要ない。
- ・金銭的な支援
- ・それぞれの本来の役割の再確認

	男性 (n=432)	女性 (n=603)	全体 (n=1,052)
男女共同参画についての学校教育の充実	13.0%	10.9%	29.6%
男女共同参画に関する情報提供や学習機会の充実	9.0%	9.1%	23.1%
女性の活躍推進に関連した取組みの推進	5.6%	4.5%	10.7%
男性の家事、育児、介護等への参加と意識改革	8.1%	14.8%	28.7%
相談体制の強化	6.0%	4.3%	13.0%
健康づくりのための健診体制や相談事業の充実	4.6%	3.5%	11.1%
政策決定・意思決定への女性の参画促進	3.7%	7.0%	12.5%
市の審議会等への女性の登用推進	5.1%	3.8%	10.9%
市内事業者との連携強化による良好な就労環境(ワーク・ライフ・バランス)の推進	4.2%	3.6%	9.7%
セクシュアル・ハラスメントへの対策	1.6%	1.2%	4.4%
就職希望者への支援	3.5%	5.5%	13.2%
子育て支援サービスの充実(保育サービス、学童保育等)	6.9%	11.4%	25.9%
介護サービスの充実(訪問介護、ショートステイ、施設サービス等)	4.4%	7.8%	16.4%
防災におけるまちづくり(防災活動)での男女共同参画の推進	1.6%	2.3%	4.6%
ドメスティック・バイオレンス(DV)やデートDV等への対策	0.7%	1.3%	2.9%
暮らしやすい環境づくり(住宅、道路、公園等のバリアフリーの推進等)	4.4%	5.6%	16.3%
セクシュアル・マイノリティに対する理解促進・環境整備	0.7%	1.3%	2.8%
地域コミュニティでの男女共同参画の推進	1.4%	1.7%	4.7%
啓発事業の推進による男女共同参画社会づくり	1.2%	1.5%	2.6%
困難な問題を抱える女性への支援	3.2%	5.3%	9.6%
その他	1.4%	0.5%	2.8%

(2) 自由記入【問31】

<社会における男女共同参画意識について>

1. “LGBTだけを強調するのは偏っていると思う。一人一人が大切な人間である事を認め合えれば、性別だけの差別ではなく、出生や思想、信条、宗教、学歴などで差別する事はなくなるはず。
2. 性自認、小学生から教える意味がわかりません。子どもは混乱したりしないのでしょうか。既に子育てが終わっていてよかったと思います。多様性、共生、過度な押し付けはやめてほしいです。女性用トイレが無くならない事を切望します。
3. 女性の労働者が圧倒的に多い職場であっても管理職はすべて男性といったように、女性の意見を反映しにくい環境はまだ多いように思います。必ずしも女性なら女性のことを理解できるとは限りませんが、男女関係なく自分の体調や家庭の事情について配慮を得ながら働くことができるよう、マネジメントをする側の教育や意識改革が必要だと考えます。
4. また、私は平成生まれですが、あからさまに「女性は男性の三歩後ろを歩け」と言われたことこそないものの、無意識のうちに男性の機嫌を取らなければいけない(≒逆らったら危険な目に遭うかもしれない)、男性を立てなければいけないと考えてしまっていたと気づいたことがあり、やはり成長する過程のどこかで刷り込まれたのだと思います。これから生まれ育つ子どもたちには、男女問わずそのような刷り込みがなくなると願っています。
5. 政治家などの女性差別的な発言に、自治体首長から抗議する。
6. 「男女共同参画」を進めるための活動に様々な意図的なバイアスが入り込んで、本質が曖昧にされてしまうことに危惧を感じています。

7. 皆、自分のことで精一杯でマイノリティの問題や男女共同参画の問題に興味や関心が持てないのが実情だと思う。社会は本質的に多数派の利益が最大化するような力学が働きやすく、少数派や力の無いものが疎外され我慢するようになっていきやすい。このような問題が議論される様になったのはごく最近のことであり、成人して社会に出て時間を経た層に意識を変えるアプローチするのは難しい。若い世代は教育機会の中で自然に促すことが出来ていると思うが、特に40代以降の意識を変えるには粘り強く取りくむより他ないと思う。
8. どんな人でも偏見なく接することができる自分になる為に、知識も必要だと感じてます。
9. 社会全体で意識改革が必要ですね。”
10. 人任せにしたり、会社や市がやってくれるものという誰かがやってくれるという考えではなく、自らが考え動くことが重要だと思う
11. まず意識を変えなければ、どのような施策も形式的なものになる。
12. 施策や啓発で推進するのではなく、そもそも男女関係なく、皆で協力し合い、認め合う社会づくりが自然とできることが大事だと考える。当たり前のことをできる人。つまり古い考えの人は不要である。
13. 男女共同参画という言葉自体が、女性への差別のように感じる。このような言葉がそもそも産まれないようにするべき。
14. 1つ目は、男女の基本的な違い、体力的に優位な男性のみが戦争に強制参加であることと、女性のみが妊娠する事。この2点から発生する違いをどこまで擦り合わせられるか。2つめは、性別に関わらず、性格(価値観)による違いも共生を考える上では大きなポイントだと思います。6つくらいのポイントを抽出し、配慮しあう方法を見つけるのもよいかと思います。
15. 男女のあり方は本当にさまざまであり私のいまだに昭和の時代を生きているようでは何も理解出来ません。特に問題が生じなければ、個々人に、まかされ、支援と相談窓口をきちんとつくり、アピールするべきだと考えます。
16. 男女のくくりでなく、パーソナリティに応じて、それぞれが人に迷惑をかけない範囲で生きたいように生きられることが大切だと思う。管理職の男女比を同数にするというような表向きの数値だけで判断することは共同参画とは言えないと感じている。
17. 女性だから参画させるのではなく、能力や人間性で選ぶようにしてください。
18. 女性の積極的な行動が必要
19. 選択的夫婦別氏制度の導入に！
20. 本アンケートで、市が運営している相談窓口があることをはじめて知りました。あのとき、窓口の存在を知っていればもっとほかの解決方法もとれたのではないかと思います。
21. 小学校の保護者会の父親の出席率がとても低いと感じます。社会全体で意識を変えていかなければ育児介護は女性主導であるとの意識はなかなか変わらないと思います。
22. 今は分かりやすく「男女」と名称に掲げていますが、理想はあらゆるアイデンティティを尊重し合える環境になることだと思っています。性別という基本的なアイデンティティでさえ平等に扱えていないのだと危機感を覚えています。
23. 男女のステレオタイプや介護・育児は家庭内という価値観が強く、そのあたりの意識改革や、増税でも介護・育児サービスを出来るだけ無料に近づけるといいなと思っています
24. なんでこんなに女性は仕事に家庭に沢山のタスクを抱えて大変なのに評価されないのか。本当に不思議でなりません。ただ最近では保育園の送迎を父親が行っているのが、多い傾向なのでよいなと思いながら眺めています。小さいことから一つずつ、女性の自己肯定感が高まる社会になってほしいです。
25. 女性トイレや女湯といった場所にトランスジェンダー女性が入れるようになる最近の傾向に不安がある。明らかに男性だけドスカートを履いている、女性の格好をしている人を市内でも見かけ

るが、正直とても怖いと感じる。これが差別と言われてしまうとどう自分や子どもを守ってあげばいいのかわからない。

26. ファザーリング・ジャパン等の提供している研修を全国民受講するなどして、特に40代以降の世代の価値観(OS)をアップデートしていかなくてはいけないと思う。
27. もう少し弱者男性が増えていて女性が裕福になっている現実を目を向けて本当の意味での平等を追求してください。
28. 男尊女卑の風潮は染み込んでいるので簡単に平等にすることは確かに難しいと感じます。ですが実践する企業や家庭が増えれば浸透していくと思うので、癒着や忖度なしでアクションを起こしていただけたらと思います。
29. 男女で役割分担はあるのも事実だと思う。
30. 政治に関わる人に、女性や若い世代を増やしてほしい。
31. 男女の共同参画施策に力を入れすぎだと思う。男子校女子校廃止とか一方の性別だけ優遇して入学とかやりすぎている感がある。普通に企業に勤めていても男女間の時間単価は同じだし、働く母親が多い分賃金格差が多いのは仕方ないのである。そんなことより、もっと直近課題の少子化(いかに子供を増やせるか)に力を入れるべきである。
32. 弱者でありかつ社会を支える立場である、女性や子どもが守られる、生きやすい社会を目指すべきだと思います。男性の犯罪率の多さに対して向き合うべきだと思います。
33. 女性の参画を強制するのではなく、意思を尊重した結果、女性の参画が少ないのであれば、環境の問題であることを認識してもらいたい。
34. 一生懸命勉強して国公立の大学を卒業しても結婚すると夫の食事の用意と言う事が当たり前になる。
35. この今まで婚姻から生じる「当たり前」とされ続けてきたことに大いに疑問を感じる。まず、この「当たり前」の社会通念をどう変えて行くのかが課題だと思う。
36. 私は女性で、出産を機に仕事を辞め、半分フリーランス、半分専業主婦のような生活をしています。子どもが生まれると、外部へ向かうエネルギーよりも子どもや家庭を守る内側へのエネルギーが多くなり、なかなか働く(会社に勤める)気持ちが湧かなくなりました。男性女性、平等に社会に参画する必要はとても感じています。ですが出産後に女性の心境はこんなにも、変わるものなのかと、実感しました。社会でバリバリ活躍していない内向きな自分に少し引け目を感じながらも、いまは家庭を守りたい、という気持ちの狭間で揺れる思いがあります。女性の活躍！と言われた時に、わたしは活躍していないのかな、と少しさみしくなったり、家族を支えることで活躍している自分よりも、やっぱり会社でバリバリ働く夫やワーキングマザーが少し羨ましい時も。複雑な気持ちですが、男性、女性関係なく、それぞれが自分の進みたい方向に向かえる社会が良い社会で、男女共同参画社会なのでは、と思います。
37. 狛江市…という範囲だけではなく、日本全国でスタートしないと認識のズレなどで結婚してからもトラブルの元が増えると思います。
38. 男女共に意識改革を行い、平等な生活を送れるようになることが理想であると願う。そのために手助けとなる社会的な情報、設備、支援が必要であると思う。
39. 結婚で片方の名字を選択することも、その後の男女共同に影響してくると思います。少子化で、だんだん実家姓や財産が吸収されて消滅していく時代です。早くこの辺の足並みも揃えていただかないと女性は厳しい立場に置かれたままです。
40. 男性が育児休暇を取るだけではなく、子どもが熱を出した時に仕事を早退して保育園に迎えに行くことなど、まだまだ子どもを理由にした遅刻や早退のハードルが高い。それは女性にもまだ言えることで、子ども優先の世の中になっていないことが問題だと思います。
41. 男女比を一定にすることよりも能力や技能で人を見て選べればよいと思う

42. 男女平等を推進する為には、男性優遇や女性優遇、ジェンダー優遇も不要。お互いを理解し、認めるだけで生活は成り立つと思う。
43. 性別だけは難しい判断が必要で、気分で切り替えてはならない。そこを間違えると痴漢などの取締りが出来なくなると思いますので、法整備は必要と思います。
44. まだまだ、女性は仕事をしていても家事、育児、介護のウエイトが高い現状にあります。男性が女性と同等に担うことがデフォルトになる未来が早く来ればよいと切望します。
45. 男性も女性レベルの家事、育児、介護が出来ればお一人様になった時や、老後の生活が明るくなると思います。
46. 女性、男性の意識改革などの前に、とにかく働く現場での思考が家族優先からあまりにもほど遠いので、例えばイクメンなどの言葉のみが広がってそういう流行を生むと、現実との合致がされてなさすぎて家庭が崩壊してしまうと思う。言葉ではなく、現実的な社会意識改革が最優先かつ必須だと思います。そもそも綺麗事を話している人たちが実体験がないなどという事もあったり、あまりにも空想話すぎて残念。私自身が想像では圧倒的に及ばない事の一つが、子育てだと実体験によりわかったのです。
47. 精神的、体力的にほんとにギリギリな夫婦に、地域とか社会とかを考える余裕は当然ない。
48. 仕事というものに対しての日本人の思考が本当に苦しい現実を作っていると実感する。
49. 健康な独身男性が最も体力もあり、バリバリ仕事をできるのは当然なので、男女平等意識は、仕事をたくさんしてる事（家事ではなくお金を稼ぐ仕事）がえらいというような古い頭を捨て切れない限り難しいと思う。
50. 私の職場では、女性の方がたくさん活躍しているが、家庭のない女性も多いので、家庭のある男性に対して仕事ぶりが足りないと思うような女性もいると思う。そこはやはり女性男性関係なく、実体験がないと分かりようのない事なので、仕方のない事だと無視して家族ある人の事を考えた仕組みを作っていくないと、本当に健康体な人のみ楽になる社会になっていってしまうと思います。
51. 男女に限らず、真に差別意識のない社会を目指すには、性別や人種、国籍や年齢といった属性で人を分類せず、常に個人個人と向き合うという姿勢で生きるように心がけることに尽きると思う。これは大勢の人を相手にするときにはまったく効率的でないのは承知しているが、そのような意識を持ち、自省することを促すことでしか社会の空気を変えていくことは難しい。
52. まずは、育児休暇を必ず両親ともに取得し、同じように子育てを行うべきです。平等を経験せずに平等は語れません。社会の平等はそこから始まるのだと思います。福祉に関しても同じです。多様性の経験を積み重ねることで、子どもは平等の真意を理解するのだと思います。経験なしでの平等は、新たな差別を生み出します。
53. LGBTの件で少々。私はそこに該当する者です。正直今まで暮らしていく中で、差別を受けた事はありません。あえて言えば、結婚しないのかと周りから言われる事が多かった事くらいかと。しかし、昨今の結婚率の低さ故、結婚しない事が性的指向から来る問題とはならず、世間からは個人の考え故とされている気がします。昨今、LGBTに関していろいろな活動されている方が増え、いろいろな発信も増えていますが、正直言って私の周りの多くの方は、違和感を感じています。
54. 欧米諸国のような差別が元々なかった日本です。そこにあえて、LGBTとカテゴライズして、差別や支援の対象にします、と言われても、正直、放っておいてくれ、普通の未婚の人扱いで十分という思いです。逆にLGBT活動家のせいで、思想的に偏った人が多いような目で見られて迷惑です。（ただし、トランスジェンダーの人には支援が必要です）LGBTうんぬんより、独身の人、身寄りのない人の支援をしてほしいです。入院時の保証人、無くなった際に親族以外に相続させる方法、親族以外の扶養など独身者や親族がいない、もしくは、親族との関係がよくない独り身の人が暮らしやすいような制度がほしいです。

55. 今の若い世代は男女ともに多層的というか視野が広いイメージですが、40代以降の特に男性は女性軽視、差別を無意識にされている方が多い印象です。
56. 男女共同参画については、自治体がどうこうというより各企業がまだまだ踏み込んでいないと感じます。私自身は子どもはおりませんが、職場で育児との両立で苦勞しているのはまだまだ女性の方が多印象です。また保育士さんの離職問題など必要なところに予算がまわっていないのではと感じられます。
57. 動物学的に女性と男性の違いを理解した上で本当の平等とはどういう事なのかを考えないと今までの社会構成の枠にあてはめて無理矢理平等と訴えても上手くいくことはないと思う。子どもを産むにも女性には年齢が関係してくるし、産休とるには大企業でなければ元の職場と同じ環境で復帰するなど現実的に難しい。ひとりが抜けても問題がない仕事のシステムを求めるなら社会全体的再構築、再考しないと権利だけ主張して自分の事しか考えない人ばかりになると思う。解決する方法を発言する人をまだ見かけないのでこれからの新たな発想、思考でそういう案が出てくる事を期待する
58. 男女ともに、社会で活躍できる世の中であってほしいと思います。また、男女ともにサポートにまわるという選択をした人たちにも敬意が払われるような社会であれば、より選択肢が広がり多様性のある社会を実現できるのではないかと考えています。どんなライフスタイルを選んでも住みやすいまちであれば嬉しいです。
59. 男女平等の教育や啓発は限界があると思うため、それらを進めながらも安価で誰でも受けられる育児、介護、高齢者のサービス機関を増やすことも必要だと思う。
60. 男性を助ける必要がないと判断されているのは、仕事をさせられているから経済的には独立しているだけであり、男性は仕事をするもの、という固定観念を外さずに家事育児に参加しろと言われてたところでタスクの積み増しが起こるだけです。仕事上男性が多いという事実を問題として認識しているのであれば、家事育児上女性が多いという事実も問題として認識していただきたいです。働きたいと思う女性が存在するなら家事育児をしたいという男性も同様に存在する認識がかけられているように感じます。相互に対策していただきたいです。
61. 自身、学校で男女差を感じることは少なかったが、卒業後社会人となり、不平等やこんな筈では、と違和感を持った。教育は大事である。が、理念と理想だけでなく、実地で実現できる社会ができればよい。
62. 日本はもともと男女に大きな差別がある国ではないと思います。本人の能力とやる気があれば
63. どんな分野でも活躍できます。したがって行政が税金を使ってこうした問題に必要以上に介入することに疑問を持っています。
64. さまざまな人がいればさまざまな対応が必要。一律ではない細かい対応が必要。
65. 男女差別は、経験した事はない。生活保護については疑問が多いが…日本はもともとそんなに差別社会ではないと思う。

<家庭・学校教育における男女共同参画意識について>

1. 女性目線、女性の立場から意見を発信しようとしても、それまでの習慣から、いつのまにか男性に付度した考えに流れがちな自分がいます。教育によって、幼少期から性別による意識の壁を作られていないこれからの世代を大切に育てたいと思います。
2. 根強い意識を変えるには、男女の役割を試験的に入れ替え、互いの状況を体験することによる理解促進など、極端とめいえる対応が必要と考えます
3. 男女平等と言っていますが、女性が仕事を持つと家事や子育てや介護との両立で忙しい毎日です。とても平等だとは思えません。子どもの頃から男性も家事や子育てなどに参加する教育が必要なのではないのでしょうか。古い考えが捨てきれない主人世代は、いくら協力してほしいと訴えて

も3日坊主で続きません。子どもの頃から教育すれば、女性ももっと社会進出が出来、人手不足も解消出来ると思っています。もっと男性も家事や子育てなど頑張ってもらいたいです。

4. 施策自体は大切なことだが、なんでも学校教育を使おうとするのは時代にあっておらず適切ではないと思います。
5. 教育の大切さ。知っているかいないかで、差が出るものだと思います。各家庭で考えていけるような話ではないと思います。なので、啓蒙がいます。
6. 子どもが犠牲にならないこと
7. 子どもたちに家の手伝いや弁当づくり、部屋の片付け術などの教育の機会づくりは学校で設ける。講師は市民のボランティア募集やシルバーからの派遣。
8. 幼少期からの教育が大事だと思う。大人になってしまうと当事者も、周囲も理解に時間も労力もかかる。
9. まずは家庭の中、夫婦への啓発が1番かと思います。
10. 既に子育ては卒業していますが、子育て中は母親が100%負担、配偶者の協力は皆無でした。
11. まず、学校教育で人権についてちゃんと教えた方がいいと思う。人権は思いやりではなく、誰もが持っている権利なので、そこを踏まえないと上っ面で終わってしまう。
12. 男女という枠に囚われず1人の人間として他者・社会とどのように関わっていくのかというスキルが問われる時代だと思います。このスキルは学校での教育だけで身につけるのは困難です。地域、家庭での教育も必要です。学校はもちろん社会全体の大人が他者を思いやる余裕ある社会の実現が、男女平等・多様性を実現することに繋がると思います。
13. 生まれ育ってきた環境（家庭環境や場所）によって、男女の意識が違うことは現実です。これを一律に同じような感覚にするためには幼少の頃からの教育が必要だと思います。
14. 男女共同参画活動が始まってから、しばらく経って、家庭では浸透してきたと思われる。しかし、社会的にはまだまだ進み方が遅いと思っています。
15. マイノリティーに理解ある教育を小さいころから行ってほしいです。
16. 学校教育において、男女以前に人権教育の充実をすべきだと思います。性差別から端を発しているので、性教育は人権教育として行ってほしいです。
17. 生活にゆとりのない人に社会が早く気づき手を差し伸べる仕組みと、ゆとりを持った生活をする為の若い時からの教育は、常に続けるべき。
18. 子どもが小学生男児ですが、本人が男女差別を感じるような事があるようです。女子は同じことをしても怒られない、怒られ方が違う、女子だけ更衣室を使えるなど多々あるようです。先生方からまずは男女差なく教育するように研修などお願いしたい。

<女性の社会進出について>

1. 結婚したら女が名前を変えなければならない。子どもを生んだら女性は確実にキャリアに影響が出る。
2. 全ての女性がバリバリキャリア志向という訳ではありません。希望する働き方を、男性が認めて協力する(特に家事、育児)ことが非常に重要だと思います。
3. 100年程度(人間3代)の期間、各組織の女性リーダーの割合を70パーセント程度以上にする必要があるのでないかと考えます。
4. セクハラがダメだ、という意識はある人が多いので、言われませんが、「その仕事は20代の女性が結婚したら次の人になるポジションだった」と退職勧奨されたことがありました。賃金を上げられない、出せない会社は潰れてほしい。
5. 市での取組みとして素晴らしい取組みであり自分自身関心の高い分野なので興味深いです。自分のさまざまな経験から女性の活躍の為に貢献したいと思いキャリアコンサルタントの資格を取得

- しました。市での取組みには積極的に参加したいですし、何かできる事があれば貢献したいです。
6. 女性活躍が出来るのは、もっと時間がかかると思うので、今できることを地道にやるしかないと思います。男性は女性が支えてくれているから活躍出来ていることを忘れないでほしいです。女性には、仕事、家事、育児、介護とさまざまなことを求めすぎです。その結果、少子高齢化になってしまった要因の一つだと感じます。
 7. 意図的に女性のポスト作りや人数の格差防止と敢えて示すことこそ、逆に不平等、目先のやっただりを感じます。でなく、能力あるなら道があるというようにすべき。それが、家事都合や早帰りしないといけない物理的な理由で仕事か満足にできないのことで制約となるなら、それを支援する体制をつくる。
 8. 男の人も手伝うでなく家庭の当たり前な行動として家事を担う意識改革やディスカッションの機会を。
 9. 女性の活躍推進のために、女性の管理職を何パーセントにするといった目標は辞めた方がよいと思う。それを目標にすると場合によっては女性に出世の下駄を履かせていると思われる。女性の管理職を増やすなら、育児の男性の参加推進による、育児等の機会の均等化によって、女性が育児で出世を諦めなくなると思うので、男性の育児参加推進や、男性が育児に参加できるよう、職場の仕組み作り等を先に進めるべきだと思う。
 10. 男女の差別は、職種によって違いがありますね。
 11. 子どもや介護する人がいる女性は特に家庭での仕事が増えやすく、仕事の面で不利な状況にあると思います。仕事に集中したくても仕事だけに注力することが難しく、就職や転職、昇給の面で劣るばかりか自分自身の健康を守ることも二の次になっている様に感じます。
 12. 女性が参画しにくい環境はあまりなく、どちらかと言えば参画したくない方が多いと思う。参画したいのに家事等により参画できないケースでは、家庭での話し合いが重要と思う。
 13. 大学までの教育過程では男女差別を経験する事はあまりないと思いますが、就職活動を含めたそれ以降では仕事でも家庭でも男女差別、特に出産がある場合は女性への負担が増します。同じ仕事を夫婦で持っていて、常に負担は母親だったと強く感じます。
 14. 有名日本企業への就職も一見男女平等をうたっていますが、実は男子が有利。外資系は差別への意識が非常に高いので、優秀な女性は外資系に転職する事が多いのではないのでしょうか。
 15. 近年では女性優遇が行き過ぎなくらい進行しております。入試においても女性枠や女性のみを対象にした家賃支援などが増えており、法の下での平等に反した事例がたくさんあります。
 16. 社会として女性採用比率や役員30%など、とくかく女性には無条件優遇が適応されます。ダイバーシティ＝女性優遇となっておりますが、本当に弱者なののでしょうか？
 17. 会社で言えば高卒や前科のある人などが圧倒的に少なく、当然障がい者も弱者です。もっとダイバーシティをジェンダーではなく広く見るべきではないのでしょうか。
 18. 優れた女性は、本当に素晴らしいし社会にとってプラスになると思う。
 19. 社会に変化をもたらす為には、特に活力のある30代、40代の仕事環境、家庭環境を改善する事が肝要と思います。仕事環境は社会全体の動きを待たなければ、自治体ができる事は限られると思いますが、日常の家庭環境の面では多様な施策を実施する事で、支援できる部分があると思います。やはり、これからは女性が安心して活躍出来る社会でなければなりません。
 20. 昭和時代に認められていた「フルタイムで働いているおじさんは家事育児をしなくてもよい」という価値観が、なぜ令和のフルタイムで働いているおばさん(私含む)には適用されず、むしろ否定をされるのか。
 21. 国政に比べれば市議会議員の女性比率が高いことは好意的にみている。女性比率50%~75%を目指してほしい。意思決定層に女性、若年層を増やすことが男女共同参画推進への最短ルートだと思う。

22. 女性の社会進出に必要なことは複数あるが、市としては長時間労働を是とする社会の空気に反論すること、あとは男性の家庭進出を促す活動をしてほしい。女性、とくに家庭をもつ女性は仕事と家事育児でとくに過労死ラインを超えるくらい稼働している。外部サービスを使うにしても、サービスを使うための調整というタスクにうんざりしている。
23. 数合わせで男女平等を求めるのではなく、参加したい女性が参加できる環境を整えることが大事かと思います。女性の意見も平等に取り入れる。活躍したい女性を男女平等に扱うとかは大切。
24. 女性推進のために女性に活躍の場をと役職がついたとしても、実際に昇進したいとか思っている人はごく少数でしょう。そして、家庭を持ちながらどんなに平等な環境だとしても、気づき・きめ細やかさ・性的ケアの面から子育て家事介護において女性の負担割合はどうしても多くなります。女性の負担を軽減するために、男性が積極的に社会全体が家事・育児・介護をすることが当たり前と考える社会環境や人材を増やしていくことが大切と考えます。
25. 子どもが欲しいが現在派遣社員のため、産休をとると現在の職場に基本的には戻れない。現在の仕事が好きで現在の職場を離れたくないため、子どもを作るのをためらっている。女性だけが妊娠により負担が大きい。派遣法の改正や職場の人の理解が変わればいいと思う。
26. いろいろな施策に対して女性の参画比率を5割以上に義務付ける。
27. 女性の活躍に力をいれる一方、出産にはタイムリミットがあることに悩みを感じます。ある程度のキャリアを積んでから考えると、手遅れになっていることもあります。学生や新社会人の段階でも、女性が結婚して出産して、早くもとのキャリアに戻っていくシステムが確立されるべきです。そうでなければ、勇気を持ったキャリアの中断は難しいと感じます。

<市の施策について>

1. 狛江市に男女共同参画推進委員会があることは、昨年そこが企画したとは知らずに行った講演会で、初めて知った。『狛江市男女共同参画推進委員会だより』もそこで初めて入手して読んだ。せっかく良いことをしているのに、委員会の存在や活動内容についての認知度が高いとはあまり思えないので、『広報こまえ』などより多くの市民が目にする媒体でも活動を周知したり、駅などの人目に付きやすいところに『委員会だより』やポスターを置くなどして、アピールすると良いのではないだろうか。
2. 男女参画の前に、老人ばかり優遇してばかりの市政、うんざりです。子育てしやすいまちに変えてください
3. 若い世代の男女平等の意識は大分浸透していると思うが、社会制度や法律の大元が変わっていない。セクシャルマイノリティでも結婚できる制度ができる、婚姻時どちらかの名前戸籍に入らないといけない法律などが変わるとおのずと社会意識も変わってくると思う。法律を変えるのは時間がかかるが、狛江市でも、渋谷区のようにパートナー制度があるとよいのでは。
4. 他自治体と比べても保育園や学童に入りにくい。子育てしながら仕事を継続するためのサポート（学童・保育園等）の充実や民間預かり・習い事の誘致をお願いしたい。
5. 子どもの遊べる施設（公園、児童館、図書館）が少なくかつ古く、整備が整っていないことも多い（公園が草だらけで遊具が古い又は遊具設置がない。オムツ替えトイレがない）。休日母親が家事の合間、市内で短時間父子が遊べる場所があるとありがたい（市外に出かけるには、家族全員で外出になり、夫婦で役割分担しにくい）
6. 気軽にオンラインで参加できるセミナーとかあれば参加してみたいです。
7. 男女と言っているところがそもそもどうなのだろう…とも感じるが、現状を知らないと話も進まないで…。それぞれが出来る事をする。不得意や苦手な事はどんな風に苦手なのか、それを出来る人はどんな風にやっているのか、もっと改善するやり方はあるのかななどを模索していった方がいい気がします。まずは市で働く職員さんに余裕の生まれる働き方、IT化を進める事が結果

的に市民のためになると感じます。それに、自分や家族が納得していれば客観的に見てバランスが悪くてもよいと思う。

8. お互いが理解しあえるよう、意識啓発を根気よく続ける必要がある。
9. 育児も、介護も、どちらも経験している者としては、地域がどうのこうのではなく、必要な時に必要な「目」や「手」が届かないことばかりです。お金を沢山出せば有料の民間の様々なサービス使い放題かもしれませんが、大抵はそんなにお金を`出せる家庭ではないでしょう。
10. 子どもが急に発熱してもどっちも休めないのに病児保育はキャパがなさすぎて絶望的でどこにも預け先がない、救急レベルではない医療機関はカレンダー通りで日中しか空いていないので仕事後に連れて行くとなると休日夜間診療しかなくて不便すぎ…などなどサービス提供元の時間にこちらが合わせないといけない状況を`変えないとフルタイムで働き続ける=参画し続けることは永久に無理です。役所の時間に合わせろでは駄目です。
11. 介護についても、ヘルパーさんでなくてもできることがお願いできるえがおサービスがあるけれど、今ひとつ使い勝手がよくない。こういう、もうひとつ「手」が欲しい時に利用できるサービス・有償ボランティアなどがもっと広がってほしい。
12. こういう事柄は、現実的には女性が担っていることがまだまだ多いと思うので、この辺のサポートが増えて普通に気兼ねなく使えるようになったら、仕事や様々な活動にもっと参加できる人が増えるのではないのでしょうか。”
13. 仕事のある、なし、子どもや介護者のある、なし、ジェンダー、を気にせず等しく狛江市に住めて、狛江行政に参加、サービスを利用出来る事を望みます。
14. 「男女共同参画」という枠組み自体が、時代に取り残されつつある印象。市はそれの計画策定などだけで「やった気」にならず、セクシュアルマイノリティや外国籍・ミックスルーツの人や、家庭が安全な場所ではない子どもなど、様々な状況に置かれた人が自分らしくいられる現実的な環境作りをしてほしい。
15. 高齢化にともない、ジェンダー平等に則った、高齢者を含む、多世代の居場所作り。空き家や学校の空き教室を、多目的スペースに。起業やワークスペースや、健康維持のための運動や合唱や音楽活動、そして何より充実した図書館を！これにより、市民の認知症予防や健康増進につながり、これらの活動を通して、人権、ジェンダー平等、多様性を尊重する社会、ワークライフバランスの重要性を学ぶ。老若男女が生き甲斐をもてる社会作りを、市民参加型で！
16. 副市長 や総務部長など幹部に女性を登用するべき。
17. 料理が不得意な男性にむけた料理教室、障子や網戸の取り替え方教室なども充実させる。
18. 理想的な家族の紹介。誰かからの推薦や学校から一家族づつ紹介など。工夫してることなどの投稿。情報発信は誰でも目に止まる身近な広報などに掲載。
19. 女性の管理職登用を進めていただきたい。
20. 私の勤め先でも女性活躍に取り組んでいます。正しい知識の浸透が必要だと思います。多くの企業・自治体・12の組織で協力しあってさまざまな人が暮らしやすい社会に近づくことを願っています。
21. 保育園、学童の充実が女性の社会進出の後押しになる。希望する保育園に入園できること、学童の弁当配布などを拡充してほしい。
22. 狛江市は、とても住みやすいまちです。それは、職員の方々が市民の生活を守って下さっているからだと思います。私は専門職、子どもなしなので、自分の立場や収入について、悩むことは少ないです。しかし、周りの人の話を聞くと、厳しいなと感じます。みんな、気持ちに余裕がないんだと思いますが。広報をもっと市民のみんなに、いろんな方法で知らせてあげたらどうでしょうか。狛江駅（前に、サーティワンのところにマイナンバーがあったみたい）に、ナンデモ相談所を設けるとかしたら、私たちは、ふらっと相談にいけるとと思います。

23. 狛江市は外国人も多くDEIな市ではありますが、パートナーシップ条例はなく、LGBTQ+の理解、性教育などの多様性の教育が非常に遅れていると感じます。
24. 市役所や図書館で非正規で働くのは、女性が多い。問題があり、待遇改善すべきである。
25. 市内で活躍している女性の紹介、あるいはその女性の活動の講演。
26. 狛江市は子育て世帯が多いので、その関連支援制度などは充実していると思うがLGBT関係の取り組みがあまりないように感じています。
27. 「適切な情報を求めている人へつなげる、相談のハードルを下げる」のふたつが、課題だと感じます。この窓口に限らず、LINEや張り紙などそれぞれの主たる対象の環境に応じた情報提供や広報活動をより一層強化していただけると幸いです。
28. 市役所の部署の役職に男性が圧倒的に多い。もっと女性を登用する事。重要会議の決定に女性の視点を入れること。男性も子育てをしやすい環境を作ること。
29. 図書館や市が運営するリーズナブルな貸し会議室を充実させ、一般の方が研修やコミュニケーションできる場を増やしてほしいです。他の市からも人が来るので地域活性化にも繋がります。いざと言うときの避難所にもなります。
30. 過去に夫婦間のDVやモラハラで公共の窓口で相談しようとしたのですが、女性用の窓口で男性からの相談には対応できないと断われたことがあります。男尊女卑がフォーカスされることが多いのは理解していますが、家事育児に男性が関わる機会も増えてきている以上、男性に対するケアも拡充して頂きたいです。
31. 男女共同参画と、セクシュアル・マイノリティに関する質問がまとめられているのはなぜなのか気になった。性自認と身体的な性別を混同した政策によって女性の人権が損なわれるケース(渋谷区の、女子トイレ撤去オールジェンダートイレ増設の問題など)が多いので、そのあたりの理解が深い方に関わっていただきたい。
32. LINEで直接市民の声を聞くこのような機会をもっと積極的に頻繁に設けることが民主的でよいことだと思う。
33. ジェーン・スーさん(ラジオパーソナリティ)の講演会をぜひお願いします。
34. まだ女性が弱い(実際にそうだとは思いますが、ある程度の区別は必要だと考えます。ただ、女性だから弱い、といったバイアスも存在している気がします。なので、ただ平等を謳うだけではなく、政策の中にとりこぼしがちな物を用意してほしい。例えば、[女性]だから救済をうけられる、ではなく性別関係なく必要な救済を受けられる、など。
35. 障がい児のショートステイ先が市内に必要
36. 今後の政策に期待しています。
37. 友人の紹介で男女共同参画に参加したことがある。このような企画、LGBTなどの話し合いや勉強会のPRをもっとやってほしい。
38. 子育てにおける(特に幼児期)女性への負担は他人ではどうすることも出来ないから完璧な男女共同参画施策は不可能と思います。妊娠中から10年は様々な外部支援(育児、介護、仕事)が優先的に受けられるようになればいいと思います。
39. データでみるとまだまだとなるかもしれないが、今の若い子たちにとって男女共に働き、家事をして子育てをすることに抵抗感はなく、当たり前とされているように感じる。統計は、高齢の人口(引退した人たち)が含まれ、相当数いるので、古い感覚が数の上では勝るかもしれない。これからの社会を作る年代の意識を探るために、年代別で結果を見てみたい。
40. 最高府である国会が変わらないので地域からやっていくのはよいと思いました。
41. 4月入園で狛江市内の保育園に入ることができず、市外の認証保育園に通わせています。共働きのため登園がかなり負担になっています。今後も狛江市に住み続けたいと思っていますので、ぜひ認可保育園と認証保育園の拡充をお願いいたします。

42. 男女共同参画という用語がわかりにくい。子どもから高齢者まで、誰でもがわかる言葉を使って政策を考えてほしい。
43. まず机上の理論で終わらず、少しずつでいいから実行できるようしてもらいたい。些細な事でもすぐに対応してほしい。
44. 市での取組みがわからないので、それについての意見は言えないですが、狛江市で生まれ育ってこれまで男女差別を感じた事は私はなかったです。
45. 他の方は分かりませんが、とにかく今は赤ちゃんを産んですぐの方や小さなお子さんがいる方等の親子参加できる週2位で遊んだり親同士がお話して仲良くなれる場所を作ってあげてほしいです。孤立してるお母さん多いです。
46. これからのママ予備軍も安心して子どもを産んで育てられると昔の狛江みたいに、子どもがたくさん遊んでいる場所になってほしいです。
47. 共同親権の導入に際して、夫からのモラハラ、DVから逃れるための別居・離婚を希望していますが、親権の申立てや引越し就学医療への妨害行為、リーガルハラスメント等が大きな懸念となっています。1人で子育てしながらの対応は時間的にも精神的にも非常に困難で、最低限の生活のための就労すら圧迫しかねません。モラハラDV被害者向けに、住居の確保や弁護士の斡旋や費用支援、養育費の強制徴収や立替えなどの支援措置の充実をお願いいたします。
48. 少子化を減らしてみんなで子どもへの意識を高め、市全体でやってほしい。子育てしている親は共働きが多くいろいろとお金がかかるので児童手当以外にも手当らしいものを検討してほしいです。
49. 家族ある人の仕事時間が短い事に裏で文句言うような感覚がある社会では、男女平等や少子化対策は難しいのではないのでしょうか。と言ってもまだまだ長い時間がかかる事なので、家族ある人はそこは無視して頑張るしかない。そこへの支援がとにかくいま行政にできる事なのかもしれない。
50. 男性のDVや性犯罪にゆるすぎる法律を変える活動もしてほしい。子どもを当然に守れる環境を作してほしい。公共施設における親子トイレの増設に期待する。イベントを増やすならばトイレのことも気にかけてほしい。安全な親子トイレがあれば子連れで出掛けるときのハードルが下がる。親子トイレ増設にあたって、決して女子トイレを減らすような愚策には走らないでほしい。スペースに制限があるなら女子トイレではなく男子トイレを共用トイレ化するのが正しいあり方である。女性はどうしても男に比べて腕力が弱い。生物学的にどうしようもない差を正しく捉えた上で制度や施設を作っていくしてほしい。
51. 小さな市ですが、小さいからこそできる細やかな施策があると期待します。議会ガイドも読みやすくてとてもよい。LINEでアンケート募集の通知が来るのもよい。よい発信の例があるので男女共同参画施策についても引き続きよい議論、よい発信がなされることを期待します。市民としてもたくさんコメントできるようよくよく考えます。
52. 中高年男性の家事能力育成のセミナーや講座があるとよいと思う。男性は会社員も多く、普段地域社会に接する機会も少ないうえに、その世代は学校教育で家庭科もなかったため、家事能力に欠ける。引退後にいきなり足手まといなおじやな虫にならないためにも、地域に知り合いを作り、時間ができたことで今度は家事のメインの担当に慣れるような能力も身に付けられる、そんな講座があればよいと思う。
53. 最近、女性が担うもの、男性に任せておけばいいもの、という自分自身の思い込みが非常に大きかったことに気づき、愕然としています。社会や学校教育による刷り込みの影響は大きいと思います。これから生きていく若い方たちや子どもたちに、真の平等な価値観を伝えていきたい。そんなまちであってほしいと強く願っています。
54. もう少し子育て支援や子育てしやすい環境づくりを頑張ってもらいたいと思います。また、両親学級

の取組みは素晴らしいですが、もう少し男性側が妊娠、出産について女性の身体がどんな風に変化してどう過ごすのがよいのか、どのくらい身体に負担がかかっているのかといった当たり前のことを知る機会を増やさないと、ママとパパで子育てや家事への負担の格差はなかなか埋まらないと思います。本来は義務教育の中で自然に学ぶ機会があればちゃんとした知識が身について、将来子どもたちが親世代になった時に、ママとパパで子どもを作る、産む、育てる中で男女の負担の格差みたいなのは今より減るのではと思います。

55. 退職後の再雇用等積極的に参加できるような分かりやすい窓口があるとよい。
56. 男性の育児休暇の取得率を上げるとともに、気兼ねなく取得できる制度(育児休暇取得者がいる部署には手当を支給するなど)が必要。「お子持ち様」などと言わせない体制がないと育児休暇は取りにくいだろう。
57. また、男性女性ともに、家事スキルを育てるには子どもの頃からの積み重ねも必要。家庭教育はもちろん必要だが、それだけでなく地域でみんなで料理して食べられるような機会・場所があればよいのではないだろうか。オーストラリアではビーチ沿いの公園に予約なしで使えるバーベキュー施設があり、空いていれば自由に使える。現代では「食べる」ということが外注されている(コンビニでの購入も食の外注)が、自分で調理することの美味しさ・経済性を大人も子どもも学ぶことはイコール家事スキル(生きる力)の向上になる。食べることを疎かにすれば、ついには健康を損ない、市の保健・福祉財政の負担も増えていく。食の教育をもっと上位に位置付けるべきと思う。農家が多い土地柄を生かして工夫ができればよいのではないだろうか。
58. これからの狛江市に期待しています。世代交代のタイミングで大きく改革できると思うので。
59. 男女共同参画は、男女平等という視点からの取組みと思いますが、行き過ぎた施策(恣意的な後押し、優遇)は結果不平等を生む事にもなり得るので、海外の事案も参考にバランスのよい施策を希望します。
60. 片方の性への支援ではなく、両性が社会参画しやすくなりように支援するべき。
61. 問21の選択肢から、相談窓口が女性重視=男女平等になっていないことが分かりますが、男性が言葉による暴力やセクハラ、パワハラの被害を受けたときの相談窓口を作るべきだと思います。
62. 多様性だのわざわざ言及しなくてもどんな人間にもそれぞれの個性がありお互いを理解しようという気持ちが肝心で、マイノリティの人にことさらフォーカスする意味が分かりません。マイノリティの方の人権も大切ですが、だからと言って女性や子どもの安全が脅かされる法案が作られるなど(LGBT法案)社会理解と称して行き過ぎです。理解を深める取組みをすればよいだけのことで、狛江市としてこれ以上行き過ぎた動きはしないで頂きたいです。
63. 家庭内での対話により解決する面が大きいのに、十分にできていない状況で制度の充実だけを求められているふしがあるように思われる。困っている人は男性にも女性にも存在するので、性別という大きな括りで分けられない施策をお願いしたい。
64. 情報提供を間断なくお願いします。
65. 男女共同参画、子育て支援、介護支援、全て繋がっていると思います。名目だけの事業ではなく、市民生活全体を見て進めてほしいと思います。
66. ひとり親の女性に対する相談窓口など女性が相談できる場所は比較的あるんだと思った一方で、ひとり親の男性の相談できる場所はないのかなと思った。シングルファーザーで子どもが女だった場合、生理や下着問題など父親だと分からないことは多いと思う。また、ひとり親の子ども自身が相談できる場所があったほうが、問題の解決が早い場合があるのではないかと思った。
67. 女性の議員を増やすことで男性優位な議会にすることを防いでください。
68. 役所の事務的なポジションに女性が多いのが気になる。男性を働かせてほしいという意味ではなく、アシスタント的なポジションに女性が多いのが気になる。バイアスがある気がする。
69. 女性が働くためには保育園の充実が不可欠ですが、狛江市でも現状は保育施設が足りないもしく

は選べない状況にあり、保育園の空きが比較的ある低月齢で預けて働くか、女性側が退職するしがなく、男女共同参画施策と逆行している状態にあると思います。少子化とはいえ、保育施設に預けることができれば働くという人も多く、現状維持ではなく保育施設を増やしていく必要があると強く思います。また、ベビーシッターサービスなどは安全面の不安も大きく、認可保育施設の増設・増員を求めます。

70. これらの設備不足の影響を受けるのはいつも女性です。
71. これからも男女共同参画が可能になるように支援して頂きたい。
72. 男女共同参画と性的マイノリティについての施策を1つの枠組みで考えようとするのは、少し難しいところもあるかなと思いました。とはいえ、すべての人がそれぞれ尊厳をもった存在として生きられる社会を目指すべきだと思いますし、狛江市のようにコンパクトでスピーディーな行政が行えるところだと、さまざまな点でそうした理想に近づきやすい環境があるのかなと思うこともあります（とはいえ行政の負担が過大なのも承知しておりますので、市職員のみなさまの待遇や労働環境改善も必須かと思います）。若い世代の方も増えてきているようにも感じていて、未来のあるコミュニティかとも思いますので、一市民として協力できることがあれば、積極的に動いていきたいと思います。

<その他>

1. 男性の家事参加の平等はかなり時間がかかるプロジェクトに思える。
2. このアンケートの質問の選択肢自体が少し偏った考え方からできているかなと思うので、常にフラットな目線で考えるよう、議会などでも徹底してほしいです。
3. 性別にかかわらず恋愛をすること、結婚をすること、それが自然だと思われていること、それが普通だと思わないでほしい。人社会のセーフティネットから溢れてしまう人もいる事実があることも知ってほしい。
4. 現実には女性ばかり損してる。家庭内のことだから、公にはならないしのさばり続ける。女性は結婚し、10ヶ月の間お腹に子どもを入れて気遣いながら家事、仕事をこなす。靴下履くのも大変なのに。命がけで産んだ後は更に育児家事仕事を丸抱え。旦那は呑気なもんだ。
5. 女性がやるのが当然と思って疑わない。手伝うという言葉さえ使いたくない。手伝うって女性の問題という前提だから。旦那側の問題として1ミリも受け止めていない。話し合いさえも成立しない旦那もいることを知ってほしい。最悪な旦那と結婚した女性はひたすら我慢するのみ。女性の忍耐と我慢で成立しているこの日本社会を抜本から変えたい。
6. 絶えず万年人手不足な職場なので、男女共同参画等考えて仕事をしている認識はない。
7. セクハラに関しては認知症を患っている方々ばかりなので諦めるしかない。利用者の人権は守られているが、働く職員の人権は守られてはいないのが実状。
8. セクハラやLGBTの社会的理解は必要と感ずますが、それを理由に悪用する人が多すぎるのも事実かと思います。
9. ハラスメント系は、相手をどう思うかによって受け取りか方が大きく変わるので難しいと言う認識です。
10. この質問の中にもいくつか違和感をもつものがありました。家庭での役割等について、男女間で比べていますが、状況が様々であるときに男女で考えることが難しい。問30でも男性の能力向上と言っていますが、全ての人に同じに、であるべきだし、問27の性自認でも同性に愛情を感じても悩んでいない人を知っている場合は何を選ぶかわかりませんでした。基本に性差意識が残っている気がします。
11. このような質問をされる事自体がとても差別的で衝撃でした。いつまで性別に拘っているのか。それが全ての根源なのでは。さまざまな意味で女性ばかりを持ち上げようとする社会にぞっとし

ています。男尊女卑ではなく女尊男卑に向かっている。理想は、性別が関係なくなることでは。但し、もともとの性別の特徴で、職業的な向き不向きがあるのも事実と思っています。自然な形も失わずにいられると良いと思います。

12. 男女差別はありません。経済格差はあります。
13. 男女、LGBTQ等、型にはめて対立軸を作り、問題を拗らせる事に不快感を持つ。多様性と言いつつ、全く多様性がない。
14. DVをはじめとして女性側を被害者、男性を加害者と設定しているこのアンケート自体が性差別を助長している意識がある気がする。
15. 差別と区別の違いが判らない。
16. 身近ですがPTA会長職を男性が担い続けていること。彼等が仕事しないこと。そういった足下から一つ一つ改善してほしいです。
17. 私は男性なのですが、女性が多い集まりには参加しにくいことがあります。おそらく女性なら男性が多い集まりには参加しにくい雰囲気があるのでしょうか。そういう「雰囲気」って、どうすれば解消できるんでしょうね。
18. 子供を幼稚園にいたら、やりたい仕事にはつくことが難しい現実があり、子供が小1になるのを気にフリーランスと契約社員としてダブルワークで社会復帰しました。一気に仕事が増えて家事分担などが追いつかず、結果的にほとんどの家事を引き受けていたため、できないと夫に激怒される日々が多くあり、休みもあまりなく、毎日寝不足で精神的にも体力的にも本当に過酷な数年間がありました。身体を壊したのを気に仕事量を調整したり、少しずつ夫にも理解や協力をえて、何とか今はお互いのストレスを減らして暮らせるようにはなりました。
19. ただ、家事業が減ったというよりは、食事が作れない時には、お弁当を買って食べてもらうことになっただけで、まだ家事業務はほぼ私が担っています。
20. 50代後半の夫に協力を求めてもなかなか通用しません。これからも私が働きつづけなければ、住宅ローンや学費は払えませんし、働く事は好きですので、家事分担を進める事が長い課題となっています。
21. 世の中全体の意識や考え方はどんどん変わっているとは思いますが、それを夫が知るような機会があまりないと感じています。また、家事や子供の見守りをサポートする支援が充実していると、働く女性も増えると思います。人を雇える程の余裕はないけれど、共働きで家事が追いつかない家庭は本当に多いと思います。
22. 社会的慣習にも女性をリードするや奢るなど男性らしさを求める傾向があるため彼らは生涯独身です。恋愛でも女性は圧倒的な強者です。マッチングアプリや相席屋など女性はお金を払うことなく求愛されます。
23. LGBTなどに対してあまり騒ぎ立てずに見守ってあげたらよいと思う。
24. ジェンダーギャップ指数が示す通り、日本の場合、教育を受ける子どものうちは社会における女性の活躍にくさについて気づきにくく、1人で仕事をし、生活するようになってから気づくことになります。気づける環境にない場合には、そのまま結婚や子育てをするライフステージに突入し、余裕のない中で女性の負担が多い現状を受け入れて何とかやれることをやるしかありません。直近の共同親権の国会における国民の声の無視を見てもわかる通り、女性が自分の現状を把握すればするほど、結婚や子育てをしたくなくなるような、女性にとって生きにくい社会であることは確かです。私は狛江市が、法律だから、トレンドだから、数値目標が決まっているから、そうした建前でなく、市長から一職員までが、女性の置かれている環境は不平等だと理解し、何ができるのか考えていただける、そういうまちであれば良いなと思います。こうしたアンケートが取られていること自体、少し希望になりました。今後もご検討頑張ってください。
25. 夫婦別姓とか同性婚をオッケーにしないと、いくら男女参画とか言ったって国民は付いてこな

いって思う

26. 自分も男女の子育てをしてきて男だから、女だからと無意識に性別の押し付けをしてきたところがあると感じる。
27. 妊娠中夫の親から「妊娠は病気ではない」「俺が若い頃は」「旦那様に感謝して」等の暴言を吐かれ大変辛い思いを産後1年たった今でもしております。このような発言を許さないという指針を啓発していただきたいです。
28. 市民団体を立ち上げて活動していますが、共働きの子どもたちは、親との交流やコミュニケーションを望んでいますが、親の方は親子で楽しむ事よりも子どもだけ、または子どもだけ遊べるイベントを希望している事で温度差を感じます。特に未就学児や低学年の子どもたちが親に気を使っているように感じます。
29. 女性ばかりが超人化(家事育児(不妊治療)仕事社会活動等)を求められているように感じてしまう。
30. パートナーシップ制度にセクシュアルマイノリティしか含めないのは、差別だと思えます。
31. 政府も異次元の少子化対策と言ってますが全然何もなされてないと思う。
32. 高齢者施設ばかり作らないで子ども中心の施設など作ってほしいです。
33. 高齢者がますます増えていきます。心身健康な年配者は、若い世代の方々への手助け、お手伝いをする意欲は、皆さんお持ちと感じます。参加出来る場が増えるとよいと思えます。
34. LGBTQの人たちと直接話せる機会を作る必要があると思えます。
35. このアンケート自体、求める質問と答えそのものが最初から女性に対するという無意識の視点、偏見を持った目的を持ったものとなっている。アンコンシャスバイアスである事に気が付くべき。その女性自身が守られる意識が偏り強くなっていることで男性側、家庭、社会に歪んだ状態を生んでいる事を感じながら進めるべき。
36. 内容にとっても興味があるのに時間がなくて回答を1度諦めた。30問は長すぎる…月曜日の通知、主婦も会社員も時間が惜しいはず。通知が来た時に短時間で回答参加ができるべき。週1にするなり分けた方が回答率が上がると思う。
37. 男女共同と言いつつ“女性の”とつく内容が多く違和感があります。
38. 言葉は聞いた事は、あっても、内容は、知らない、分からないでは、無関心ですね。
39. まだまだ、大上段にテーマだけ構えているだけで何も始まっていない気がする。
40. 時間とお金のある健康な高齢者が増加しております。老害にならないためにも子どもと接するコミュニティがあるとよいです。
41. 市に求めることではないかもしれませんが、男女別姓、同性婚について、法律の整備が早く進んでほしいと思っています。
42. デートや交際、夫婦生活において男性が金銭的に出すという固定観念にも似たものがなくならず甘える女性が絶滅しない限り施策の意味は1ミリもない。